

International Art Festival

BIWAKO
BIENNALE
2022 ORIGIN
in Omihachiman & Hikone

起 源 ORIGIN

開催10回目となる2022年のテーマは、“起源～ORIGIN”。今もスピードを上げがりつつある宇宙、そして我々の起源も、138億年前に起こったビッグバンに集約されます。何億何兆という星や宇宙が生まれまた消えていく。誕生と死は、宇宙でさえ避けることのできない運命です。一人一人の人生も、その縮図なのかもしれません。

何故、宇宙は生まれたのか？我々人類の存在に、意味はあるのか？創造し探求し続ける人間の最も深いところから生まれ出る「アート」の中にこそ、その答えの片鱗を見出すことができるのではないのでしょうか。

The theme for the 10th edition of the BIWAKO BIENNALE is ORIGIN. Our origins, and the universe, which is expanding at an ever-increasing speed, can be traced back to the Big Bang that occurred 13.8 billion years ago. Trillions and trillions of stars were born and disappeared again. Birth and death are unavoidable, even for the universe itself. Each individual's life is nothing but a miniature reproduction of this.

Why was the universe born? Is there any meaning to our existence as human beings? I believe we can find a glimpse of the answer in the "art" that emerges from the deepest part of the hearts and minds of human beings who continue to create and explore.

| 開催会期 | 2022年10月8日(土) ～ 11月27日(日)

| 会場エリア | 滋賀県 近江八幡旧市街地、沖島、彦根市街地、彦根城、鳥居本

| 主催 | 国際芸術祭BIWAKOビエンナーレ実行委員会、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁

| 実行委員長 | 小西 理(近江八幡市長)

| 総合ディレクター | 中田 洋子



BIWAKOビエンナーレ 2022 起源

ごあいさつ

1冊の写真集がある。「Before They Pass Away」。そこに写された彼らの顔や身体は自然の染料、顔料に彩り豊かに塗られて誇らしげである。また帽子や衣装は鳥の羽や宝石、意味ありげな文様で飾られてこの世ならぬ世界に語りかけているようでもある。馬を駆りあるいは大地を踏みならし、猛禽を友とし狩りをする。

ORIGIN — 我々はどこから来て、どこへ行くのか。この古来から繰り返されてきた問いからは、現代に生きる私たちの日常はほとんど切り離されている。散策する街角でのふとした瞬間、空を眺め刻々と色を変えていく夕焼けの雲に心を奪われるとき、昼下がりの陽光に輝く湖面からの反射が瞳の奥に射し込むとき、そんな問いは仕舞い込まれた子ども時代のおもちゃ箱の中の人形のように、久しぶりだねといった面持ちで心に浮かんでくるかもしれない。

今回で10回目を迎える、BIWAKOビエンナーレ 2022。テーマは「起源～ORIGIN」。時代の中で忘れ去られようとしている建築物、また蘇ろうとしている構造物の中で出会うさまざまな作品群はきっと私たちをこのような問いにいざなう巧みに仕組まれた罫に違いない。心して触れよう、心して眺めよう、この永遠の迷宮に捉えられないように。それともそれは新しい時代の夜明けを予感させるものになるのだろうか。

参加された国内外の作家の方々、開催にあたって協力いただいたの方々、心を寄せていただいたすべての方への感謝とともに、はるかな、はるかな昔、世界が、宇宙がともに生き平和であった頃をあらゆる存在が思い出せるように、祈りをこめて。

実行委員長
近江八幡市長 小西 理

BIWAKO BIENNALE 2022 ORIGIN

Greetings

There is a photo-book titled “BEFORE THEY PASS AWAY.” People in the book look proud of themselves with their faces and bodies colorfully painted with natural dyestuffs and pigments. With their headgear and garments decorated with birds' feathers, jewels and symbolic patterns, they also look as if they were communicating with another world. They ride horses, stamp their feet on the earth, and hunt with falconry birds.

ORIGIN — Where did we come from, and where are we going? Our everyday life today seems to be almost disconnected from this repeatedly asked classic question, which however, may pop up like a doll found unexpectedly in a toy box of your childhood long tucked away in your home. Such a moment may come when you are strolling the streets, when you are mesmerized by sunset clouds with changing colors, or when a ray of early-afternoon sunlight reflected from the surface of the lake reaches your eyes.

The theme of the 10th edition of the BIWAKO BIENNALE 2022 is ORIGIN. The works of art on show in such buildings that have slowly been abandoned with the passage of time and that are being given a new lease of life are ingenious devices that will guide us to that ancient question. Be careful not to lose yourself in this eternal labyrinth when you touch or behold those artworks. They may mark the dawning of a new era.

I am grateful to the participating artists from Japan and abroad and everyone who supported the festival, and hope the festival will remind every one of us of the peaceful world which was once integral with the universe in times long past.

Chairman
Mayor of Omihachiman City Osamu Konishi

序文

まだ汗ばむほどの暑さの残る10月初頭から赤や黄色に色づいた木々がその葉を落とし、冬へと向かおうとする11月末まで、移り行く秋の清々しい季節とともにあった10回目のBIWAKOビエンナーレも、無事幕を閉じました。

毎回なんとか会期中に図録を発行していたのですが、今回は、会場が増えたせいもあり、会期後の編集となりました。未だ余韻冷めやらぬ中、写真の中で見る作品たちに改めて深い感動を味わいつつ…。

作品たちが去り、元の寂しい佇まいとなった建物たちを見るにつけBIWAKOビエンナーレが創り出す美しい風景は、なものにも代え難い稀有な存在なのだと実感させられます。

それはその建物たちが有する歴史、そこで営まれた生活の記憶と作品の息遣いがびたりと合ってこそその賜物、建物が作品たちを受け入れ喜びの声をあげているからに他ならないでしょう。

会場として使用させていただいている建物は、江戸、明治、また大正、昭和時代に土地の風土を鑑みて建てられたものです。丹精込めて造られたその造作は、まさに芸術作品、そうした過去の建物の魅力と現代のアーティストが生み出す作品とのコラボレーションは、BIWAKOビエンナーレの最大の見どころとなっています。

大津で育った私が、2002年に初めて訪れ、このような美しい町が滋賀にはあるのだということに驚くとともにどうしてもこの町でBIWAKOビエンナーレを花開かせてみたいと強く思ったのが、2回目から開催している近江八幡でした。以後、ここを拠点に回を重ね、今回が大津での開催を含め10回目…。最初に訪れた当時のひっそりと時が止まったような町の印象を思うと今の活気あふれる町は、夢のようでもあり本当に感慨深い。

近江八幡での開催が叶ったのは2004年ですが、2002年に

出会い、2016年まで拠点として私たちと共にあった“天籟宮”での思い出は特に心に深く刻まれています。当時長く住み手を失っていたせいで荒れた状態だったところをお借りし、アーティストのレジデンスとして活用を開始。汲み取り式トイレを水洗トイレにし、キッチンもつけ、BIWAKOビエンナーレの準備をしつつ土日限定でカフェを営んだ時期もありました。堀に面した離れでお茶をされた経験のある方もおられるのではないのでしょうか？ 何人ものアーティストさんがここで暮らし、作品を1年がかりで制作していたのも今は懐かしい思い出です。BIWAKOビエンナーレのない年は、毎月マルシェをしたり、お茶会やコンサート、小さな展覧会も開催しましたね。何度もBIWAKOビエンナーレの会場にもなった“天籟宮”ですが、今は、このあたり随一の高級宿泊施設となっています。

BIWAKOビエンナーレにまつわる思い出は本当に濃すぎてここには書き尽くせませんが、毎回、秋の開催は季節の移り変わりを反映し、短くなる日と反比例して長く伸びていく太陽光との饗宴は変わることなくBIWAKOビエンナーレの醍醐味の一つといえます。今回も明かり取り窓から真っ直ぐに伸びる光は、水をたたえたガラス作品へと伸び、想像を遥かに超える得も言えぬ美しい虹の情景を作り出してくれました。その建物のみならず、至る所から触手を伸ばす光が作品たちと戯れる様は、まさにお陽さまからの贈り物、ミラクルタイムに居合わせる喜びは、何ものにも変え難い至福。そして搬入時には、雑草に覆われジャングル状態である庭も会期が進むとともに段々と表情を変えていき、四季のある日本という国に生まれたことをありがたく思うと同時に、この四季の移り変わりが日本人の美意識を育んだのだな、と実感させてくれます。

今回、初めて会場となった沖島は、日本の自然の豊かさを味わうには、これ以上望めないほどすばらしいところ、日本の淡水湖の中に浮かぶ唯一の有人島です。島民は約250人、漁業を生業とする島で、1台も車はありません。島に渡るともう異次元世界。なんともんびり、そしてゆったりとした時が流れ

ています。そこでのアート作品も島自体、また島を取り囲む琵琶湖や山々の風景こそが主役といった島に寄り添ったやさしい作品たちでした。

前回から加わった彦根でも国宝、彦根城や玄宮園はじめ、商店街の空き店舗や元銭湯など魅力あふれる建物や庭が、アートで一層魅力を増し、町散策を楽しんでいただけたかと思います。

また旧中山道の宿場町鳥居本は、私自身前年の2021年に初めて訪れたところで江戸時代から続く薬屋さんがいまだ現役で同じ薬を売っておられることにまず驚愕しました。そして築270年というその建物の立派さは、他にたとえようもなく、明治天皇が小休止をされたという文化財にもなっているところを会場とさせていただくこととなったときには、どのような作品がここの魅力をひきたててくれるだろう？とワクワクしながら妄想を膨らませていました。また旧街道沿いに残る元合羽やさんのお宅も落ち着いた佇まい、お薬やさんも元合羽やさんもお住まいになっていますので、手入れが行き届き、空き家である会場とは違って温かみがあります。また近江鉄道の駅舎も100年ほど経っている有形文化財、ここも会場にさせていただき、とても濃い内容の展示になったかと思います。

そして近江八幡、沖島、彦根、鳥居本、それぞれの土地に住む方々が協力してくださり、各会場の受付を担当くださったこと本当に感謝申し上げます。そうした方々の助けなしには、到底BIWAKOビエンナーレを開催することは叶いません。来られるお客様にご自身の土地の歴史をご説明いただいたり、昔の町の様子を語っていただいたり、ホスピタリティーあふれる方々の存在はBIWAKOビエンナーレをさらに魅力あるものにしてくれる柱と言っても過言ではありません。

こうしたありとあらゆる背景があって はじめて“BIWAKOビエンナーレ”という壮大なひとつのドラマは完成していくのだと毎回その奇跡に感動せずにはおれません。

“起源”と銘打った今回のテーマは、BIWAKOビエンナーレの起源を思い起こすことでもありましたが、それはひいては私自身の人生を思いかえすことでもありました。決して早いスタートではなく、人生の中盤から始めたBIWAKOビエンナーレですが、それ以前の人生もそれ以後の人生もBIWAKOビエンナーレが中心となって歩んできたように思います。

人生の終盤に入った今、これからどれほどの回を重ねることができなのか、全くわかりませんが、また次回を楽しみにしている、という多くの方々からの声は、励みにもなりとても嬉しいです。BIWAKOビエンナーレは毎回、ある意味自身への挑戦でもありました。さらに素晴らしい次元へと到達したいという抑えがたい欲求が湧き上がって来れば、多分、次回があるのだらうと思います。

湧き上がる創造意欲は、アーティストとして欠かせないもの、どこからくるのかわからないその存在こそが、人間の最も素晴らしい資質であり、争いや殺戮という悪しき資質の対極にあり人類が美しい地球に生かしていただいてもいい存在理由だという私の信念はこれからも変わることはないでしょう。

地球の宇宙の起源からすれば、人類の起源は、さほど遠い昔というわけではありません。そしてさらに短い人の一生、この世に生を受けたその瞬間を起源とし、その命の尽きるまで、どのように生きるのか、BIWAKOビエンナーレとの出会いが、皆さまにとって、これからの人生の新たな“起源”となり、より豊かなときを過ごす糧となるならBIWAKOビエンナーレ自体の存在も意義深いものとなり一層輝きを増すことでしょう。

末尾となりましたが、今回、そしてこれまでにBIWAKOビエンナーレを愛し、支えてくださったすべての方々 に心よりお礼申し上げます。

総合ディレクター

中田 洋子

Preface

Held in the period of changing seasons from early October, with some days still warm enough to make us sweat, through late November, with trees dropping their gold autumn leaves heralding the approach of winter, the BIWAKO BIENNALE has just wrapped up its successful 10th edition.

At the previous editions, we managed to publish catalogs during each event. For this time, however, catalogs were compiled after the festival partly because we had more venues than ever. Still feeling excited after the festival, I was once again deeply touched by the artworks in pictures.

After the artworks were removed, the venue buildings look deserted again, showing that the beautiful scenes created there would not have been possible without the BIWAKO BIENNALE. The most important key to that is that the works of art perfectly resonate with the history of the buildings and memories of life spent there. This makes the buildings embrace the works and glow in pleasure.

The venue buildings were built to meet the natural and cultural features of the place in the Edo, Meiji, Taisho, or Showa era. Built with painstaking work, the buildings themselves are artistic works. The combination of such old houses and modern artworks is the greatest appeal of the BIWAKO BIENNALE.

I grew up in Otsu City, Shiga Prefecture and never knew that the prefecture had such a beautiful town until I first visited Omihachiman in 2002. I instantly developed a strong desire to bring off the BIWAKO BIENNALE in this town. Having used venues in Omihachiman since the second edition, after the first one held in Otsu, we had the 10th edition this year. Recalling that Omihachiman was so quiet that it seemed as if time had stood still at that time when I first visited there, I feel deeply moved by how vibrant the town has become. This feels like a dream.

Before the festival started having venues in Omihachiman in 2004, I found Tenraikyu in 2002, the building which had

served as our operations base until 2016. I will never forget memories at Tenraikyu, which had been long abandoned and dilapidated. I rented the house and began using it as a residence for artists. I had the house, which originally had a septic-tank-style toilet, furnished with a flush toilet and a kitchen. For a certain period of time, we ran a café at Tenraikyu on Saturdays and Sundays while preparing for the festival. You might have had tea at the café in the house' s detached room facing the canal. I fondly remember many artists living there for a whole year to create their works. In years without the BIWAKO BIENNALE, we held a once-a-month market, tea ceremonies, concerts and small exhibitions at Tenraikyu. After being used as one of our regular venues for the BIWAKO BIENNALE, the residence is now a prominent high-end accommodation in the town.

I hold too many precious memories of the BIWAKO BIENNALE to share here. One of many great things about the festival is the spectacle created by art in combination with autumn sunlight, which casts longer shadows as the days get shorter showing the passing of the seasons. At this edition of the festival, sunlight traveling in straight-line rays from lighting windows reached a glass work containing water, creating an indescribably beautiful view with rainbows. At other venue buildings as well, we enjoyed blissful moments when rays of light came from everywhere to the artworks as if they were communicating with each other playfully. Those scenes were just a gift from the sun. The gardens of the venue buildings were overgrown with weeds like a jungle when the exhibits were being set up. They then took on different looks with each passing day during the event, making me feel grateful that I was born in a country with four seasons and realize that the turning of the seasons has contributed to a unique sense of beauty in Japan.

At this edition, we had venues on Okishima Island for the first time. Okishima is one of the best places for experiencing the natural riches of Japan, and is the only inhabited island in a freshwater lake in the country. About 250 people live there,

many of them engaged in fishing. There are no cars on the island. Once setting foot on there, you will feel transported into another dimension with a peaceful atmosphere and slow-moving time. The works of art exhibited there were in harmony with the island, lake and mountains surrounding the island, spotlighting the beautiful natural scenery.

In Hikone, a new venue area since the last edition, works of art added attractions to the charm of the venue buildings and gardens, including National Treasure Hikone Castle and its Genkyuen Garden, vacant stores in the shopping street, and a former public bath house, offering a delightful stroll for visitors.

Toriimoto is a former post town on the Nakansendo highway, to which I made my first visit in 2021. To my astonishment, there is a pharmacy established in the Edo period and some of the medicines handled there are the same as those sold back then. The 270-year-old house, which is registered as a cultural property, was used as a rest stop for Emperor Meiji. When I learned that we were allowed to use this incomparably magnificent building as a venue, I was thrilled imagining what sort of art would enhance the beauty of this house. A former raincoat shop with a calm and restrained appearance on the Edo-period highway was also a venue. Both the shop and the pharmacy are still used as residences and therefore are maintained well and have the warmth that can' t be felt in unoccupied houses. Toriimoto Station of Ohmi Railway, a 100-year-old building listed as a tangible cultural asset, was also used as a venue. Although the Toriimoto area had less venues than in other city areas, it was a treasure trove of artistic delights.

I am really indebted to the people living in Omihachiman, Okishima, Hikone, and Toriimoto who served at reception desks at the venues. Without their support, the BIWAKO BIENNALE would not have been possible. They offered generous hospitality to visitors by talking about local history or what the town was like in the past. It is not too much to say that they are key players in making the festival

even more attractive.

All such dedication behind the scenes is integral part of the BIWAKO BIENNALE as a magnificent drama. I have never ceased to be amazed by this miracle.

The theme for this edition, ORIGIN, provided an opportunity for me to revisit the origin of the BIWAKO BIENNALE and even look back on my life. I was already halfway through my life when I launched the BIWAKO BIENNALE, but I believe the festival has always been at the center of my life even before its inauguration.

Now in the last part of my life, I am not sure how many more editions I will be able to curate. But I am really encouraged and delighted by comments from many people expressing their high expectations for the next edition. Holding the BIWAKO BIENNALE has been a challenge to myself. If I feel an irresistible desire to reach an even higher level, I will probably take up yet another challenge to hold the festival.

Creative urges, which are vital to any artist, come from nowhere. They are the most wonderful nature of humanity, opposing humans' vicious thirst for fighting and killing. I have an unshakable belief that our zeal for creation is the very reason why we are allowed to live on this beautiful planet.

Compared to the origin of Earth or the universe, the origin of humankind was not very long ago. Our lifespan is even shorter. How should we live a life from the moment of origin at which we come into the world until the day we leave it? If the BIWAKO BIENNALE can bring you a new "origin" that enriches your life to come, the festival itself will have greater meaning and shine even more brightly.

Finally, I would like to thank all those people for their love and support extended to the BIWAKO BIENNALE at this as well as previous editions.

General Director
Nakata Yoko

近江八幡エリア OMIHACHIMAN AREA

012 | 近江八幡旧市街地 会場 Omihachiman Old Town Venues

014 | 旧八幡郵便局 Former Hachiman Post Office
Say Say Say, Inc. / 藤原昌樹 Fujiwara Masaki / 田中誠人 Tanaka Masato

018 | まちや倶楽部 MACHIYA CLUB
国谷隆志 Kunitani Takashi / 植松琢磨 Uematsu Takuma / ガブリエラ・モラウエッツ（+タリナイナニカ）Gabriela Morawetz (+ tarinainanika)
赤松音呂 Akamatsu Nelo / 小曽川瑠那 Kosogawa Runa / 佐々木颯 Sasaki Rui / 市川平 Ichikawa Taira / 米谷健 + ジュリア Ken + Julia Yonetani

028 | 旧扇吉もろみ倉 Former OGIKICHI Storehouse for unrefined soy
saiho + 林イグネル小百合 saiho + Hayashi Egnell Sayuri

030 | 禰長（旧喜多七右衛門邸） KICHOU [Former Kitashichiemon Residence]
アトリエシムラ atelier shimura / サークルサイド circle side / 井上剛 Inoue Tsuyoshi / 宇野裕美 Uno Hiromi / 横山翔平 Yokoyama Shohei
海野厚敬 Unno Atsutaka / 草木義博 Kusaki Yoshihiro / 江頭誠 Egashira Makoto / 給田麻那美 Kyuta Manami / 田中太賀志 Tanaka Takashi

042 | 寺本邸 Teramoto Residence
坂本太郎 Sakamoto Taro / 浅野暢晴 Asano Nobuharu / 秋永邦洋 Akinaga Kunihiro / パンチョ・フランソワ・キリシ Pancho François Quilici
ジュリアン・シニョレ Julien Signolet / あわ屋 + Kikoh Matsuura AWAYA + Kikoh Matsuura / ロバート・ハイス Robert Hais
米津真理奈 Yonetsu Marina

052 | 八幡山展望館 Mt.HACHIMAN Observation Deck
君平 Kumpei / TSURUGI [ACOON HIBINO]

054 | カネ吉別邸 KANEKICHI Private Residence
細井篤 Hosoi Atsushi / 田中哲也 Tanaka Tetsuya / 田辺磨由子 Tanabe Mayuko / 西島雄志 Nishijima Yuji
本郷芳哉 Hongo Yoshiya / アン・エリングスタム Ann Eringstam / 赤松音呂 + 横山翔平 Akamatsu Nelo + Yokoyama Shohei

064 | 藤ya FUJIYA
亘章吾 Watari Shogo

066 | 旧伴家住宅 Former Ban Residence
エヴァ・ペトリッチ Eva Petrič / うらゆかり Ura Yukari / 岩崎萌森 Iwasaki Memori

070 | 幸村邸隠居 Koumura Family Retreat Residence
河合晋平 Kawai Shimpei

071 | ティースペース茶楽 Tea Space SARAKU
Kikoh Matsuura

072 | 沖島 会場 Okishima Venues

074 | 源弥亭 GENYATEI 廃船 Decommissioned Ship
小西葵 Konishi Aoi

075 | 公園 Public Park
芦澤竜一 Ashizawa Ryuichi

076 | 島に点在 Scattered around the island
石川雷太 Ishikawa Raita

078 | 栈橋 Pier
君平 Kumpei

079 | 沖島漁協組合作業場（2F） Okishima Fishery Cooperative Association Workshop 2F
中田ナオト Nakada Naoto

彦根エリア HIKONE AREA

080 | 彦根城周辺 会場 Hikone Castle Surrounding Venues

082 | 元 近藤呉服店 Former Kondo Kimono Shop
君平 Kumpei / 田中真聡 Tanaka Masato / 菱田真史 Hishida Mafumi / 三田地博史 Mitachi Hiroshi
マチュー・キリシ Mathieu Quilici / 大野由美子 Ono Yumiko / 小出ナオキ Koide Naoki

088 | 中野家具2号館 Nakano Furniture Second Store
林勇気 Hayashi Yuki / 村松英俊 Muramatsu Hidetoshi

090 | 伊藤邸 Ito Residence
伊藤幸久 Ito Yukihisa

092 | 山の湯（元銭湯）YAMA-NO-YU [Former Public Bath House]
大野宏 Ohno Hiroshi / 大野宏 + 三田地博史 Ohno Hiroshi + Mitachi Hiroshi / 池原悠太 Ikehara Yuta
沙羅双樹 Sarasaju / 江頭誠 Egashira Makoto

095 | スミス記念堂 Smith Memorial Hall
宮田彩加 Miyata Sayaka

096 | 玄宮園 Genkyu-en
細井篤 Hosoi Atsushi

098 | 楽々園 Rakuraku-en Villa
野田拓真 Noda Takuma / 度會保浩 Watarai Yasuhiro

100 | 彦根城 天秤櫓 Hikone Castle – The Balance Turret [Tenbin Turret]
池原悠太 Ikehara Yuta / オージック AUJIK

101 | 彦根城 西の丸 三重櫓 Hikone Castle – Nishi-no-Maru Three-Story Turret
三木サチコ Miki Sachiko / イシャム・ベラダ Hicham Berrada

103 | 彦根市役所 Hikone City Hall
奥中華人 Okunaka Akihito

104 | 鳥居本 会場 Toriimoto Venues

106 | 鳥居本駅舎 Toriimoto Station
三木サチコ Miki Sachiko

107 | 木綿屋（元合羽店）Momen'ya [Former Raincoat Shop]
野田拓真 Noda Takuma / 度會保浩 Watarai Yasuhiro

108 | 有川家（明治天皇鳥居本御小休所）Arikawa Residence
塩見亮介 Shiomi Ryosuke

110 | 有川家住宅別邸 Arikawa Private Residence
西島雄志 Nishijima Yuji

112 | プレBIWAKOビエンナーレ2022 PRE-BIWAKO BIENNALE 2022

元離宮二条城 二の丸御殿台所・御清所 Nijo-jo Castle Ninomaru-goten Palace Daidokoro and Okiyodokoro
西島雄志 Nishijima Yuji / 塩見亮介 Shiomi Ryosuke / 池原悠太 Ikehara Yuta / 給田麻那美 Kyuta Manami

116 | ワークショップ・イベント Workshop & Event

※ 会場ページ及び、作品ページ内の QR コードからは、写真のみでは伝わりにくい会場や作品の様子を動画にてご覧いただけます。
Some pages are provided with QR codes. They give you access to video clips of the venues and artworks that cannot be captured by photography alone.



近江八幡市街地 Omihachiman Old Town

メイン舞台となるのは、水郷と古き商家の佇まいが美しい近江八幡旧市街。1585年に豊臣秀次が築城した八幡山城の堀割として造られた「八幡堀」は、まさに近江八幡を象徴しています。城下町が栄える要因にもなった、町の一大動脈である水運は、四季折々の町の風景を私たちに楽しませてくれます。近江商人の町として栄えた風情のある町並みの各所から、歴史を辿ることができます。



O-1

旧八幡郵便局
近江八幡エリア総合案内所
Former Hachiman Post Office
OMIHACHIMAN Area Information Desk

2004年に復元された、近代建築の父と呼ばれるウィリアム・メレル・ヴォーリズの設計による郵便局の局舎。



O-2



まちや倶楽部
MACHIYA CLUB

約300年の歴史を持つ西勝酒造の旧工場。2012年以降、まちづくりの活動拠点としても活用されている。



O-7

カネ吉別邸
KANEKICHI Private Residence

江戸期に繁栄を極めた元材木商の家と伝えられる、創業1896年の近江牛を扱う「カネ吉」が所有する町家。



O-8

藤 ya
FUJIYA

近江八幡でも古い部類に入る江戸中・後期の建物であると考えられている商家の家。



O-3

旧扇吉もろみ倉
Former OGKICHI Storehouse
for unrefined soy

近江八幡で代表的な醤油醸造元、平居吉蔵家のもろみ蔵。かつては年間50000升もの醤油を生産していた。



O-4

禧長
(旧喜多七右衛門邸)
KICHOU
[Former Kitashichiemon Residence]

威厳のある大広間が残る江戸期から豊、麻網を中心に卸売業を営んでいた近江商人・喜多七右衛門の町家。



O-9

旧伴家住宅
Former Ban Residence

江戸時代初期の豪商「伴庄右衛門」が本家として、1827年から十数年をかけて建築した家。



O-10

幸村邸隠居
Koumura Family Retreat Residence

数奇屋風に建てられた母屋に隣接する建屋(建築年不明)は枯山水の庭を配し、「隠居」として使用された。



O-5

寺本邸
Teramoto Residence

母屋部分は推定築180年という町家。地場産業・八幡瓦を製造する最初の数軒であったと考えられている。



O-6

八幡山展望館
Mt. Hachiman Observation Deck

360°ガラス張りの展望館の空間からは、現在も基盤の目をとめる近江八幡市を一望できる。



O-EXT

ティースペース 茶楽
Tea Space SARAKU

築170年の八幡堀にたたずむ土蔵をリノベーションしたカフェ。2Fはギャラリーとしても活用される。



Say Say Say, Inc.

「Ask the Oracle」

2022 年 インタラクティブ・インスタレーション：
メタリックシンセルのフリンジカーテンによる彫刻、
デジタルウェブアプリ（QRコードによるアクセス）

"Ask the Oracle" 2022 interactive installation:
sculpture made out of metallic tinsel foil fringe curtains,
digital webapp (accessible via QR code)

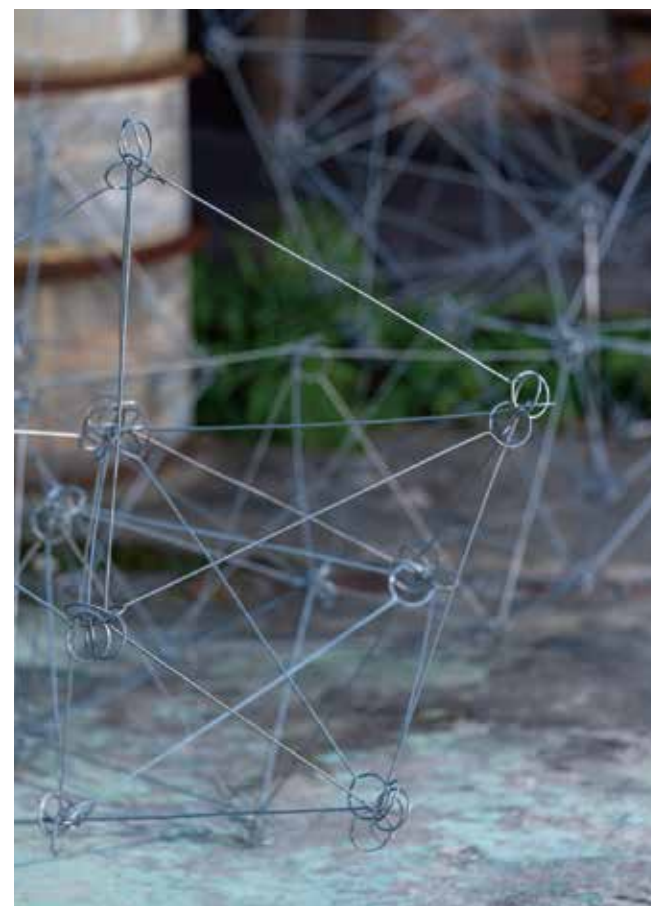


※こちらの QR コードは、デジタルウェブアプリの
QR コードではなく、作品動画になります。

*This QR code gives you access to a video of
the installation, and not the digital webapp.



BB SHOP



藤原 昌樹 Fujiwara Masaki

「テツノネ」2022 年 鉄／曲げ技法

"TETSUNONE" 2022 iron / bending technique

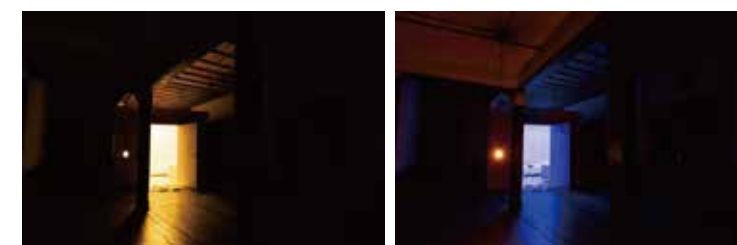


田中 誠人 Tanaka Masato

「Golden Atmosphere」

2022 年 家具、木材、照明器具、塗料、色鉛筆など

“Golden Atmosphere” 2022
furniture, wood, lighting fixtures,
paint, colored pencils, etc.





国谷 隆志 Kunitani Takashi

「A Whole New World (MILK, sky, メロン, Moon, ♡)」
 2022 年 ミクストメディア、ネオン管、変圧器、コード、ワイヤーバスケット
 "A Whole New World (MILK, sky, melon, Moon, ♡)"
 2022 mixed media, neon tubing, transformer, cord, wire basket



植松 琢磨
 Uematsu Takuma

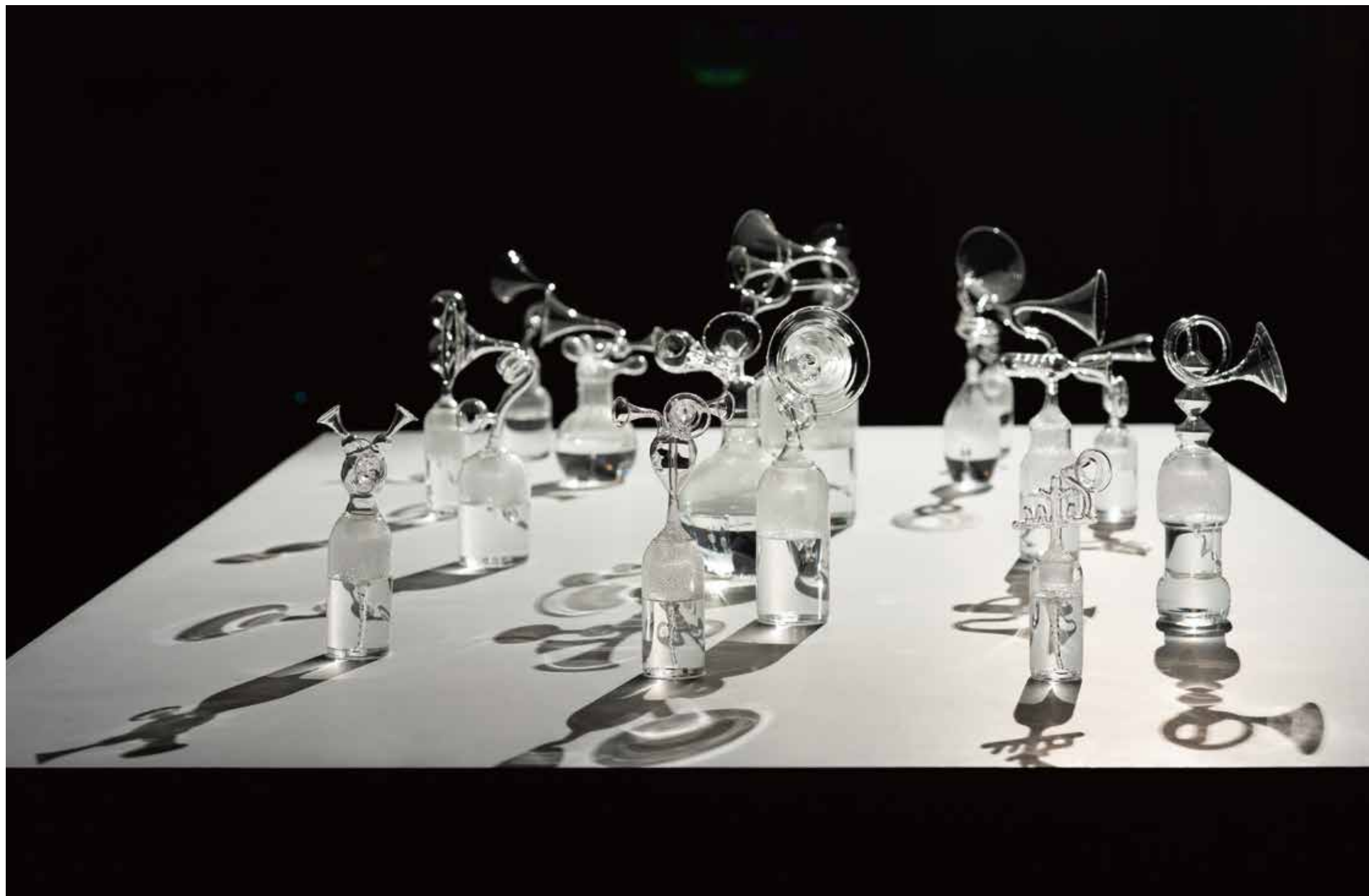
「S / N-S」
 2022 年 繊維強化プラスチック
 "S / N-S" 2022
 fiber reinforced plastics



ガブリエラ・モラウエッツ (+タリナイナニカ)
 Gabriela Morawetz (+tarinainanika)

「When He Awoke He Was Drifting Down In a Golden Tunnel as In A River」
 2022 年 ビデオ・インスタレーション／2 チャンネルビデオループ (6"24)、
 彫刻 (ミクストメディア - 鉄、木、金箔、可変寸法)、作曲家: Kasper Toeplitz
 "When He Awoke He Was Drifting Down In a Golden Tunnel as In A River"
 2022 video installation / two channel video loop (6"24),
 sculpture (mixed media - iron, wood, golden leafs), sound : Kasper Toeplitz





赤松 音呂 Akamatsu Nelo

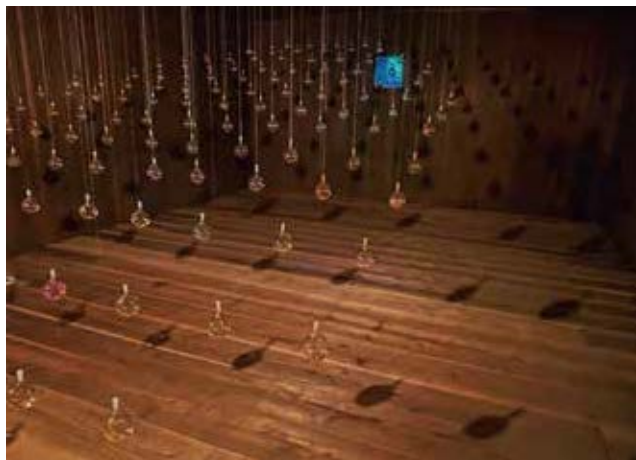
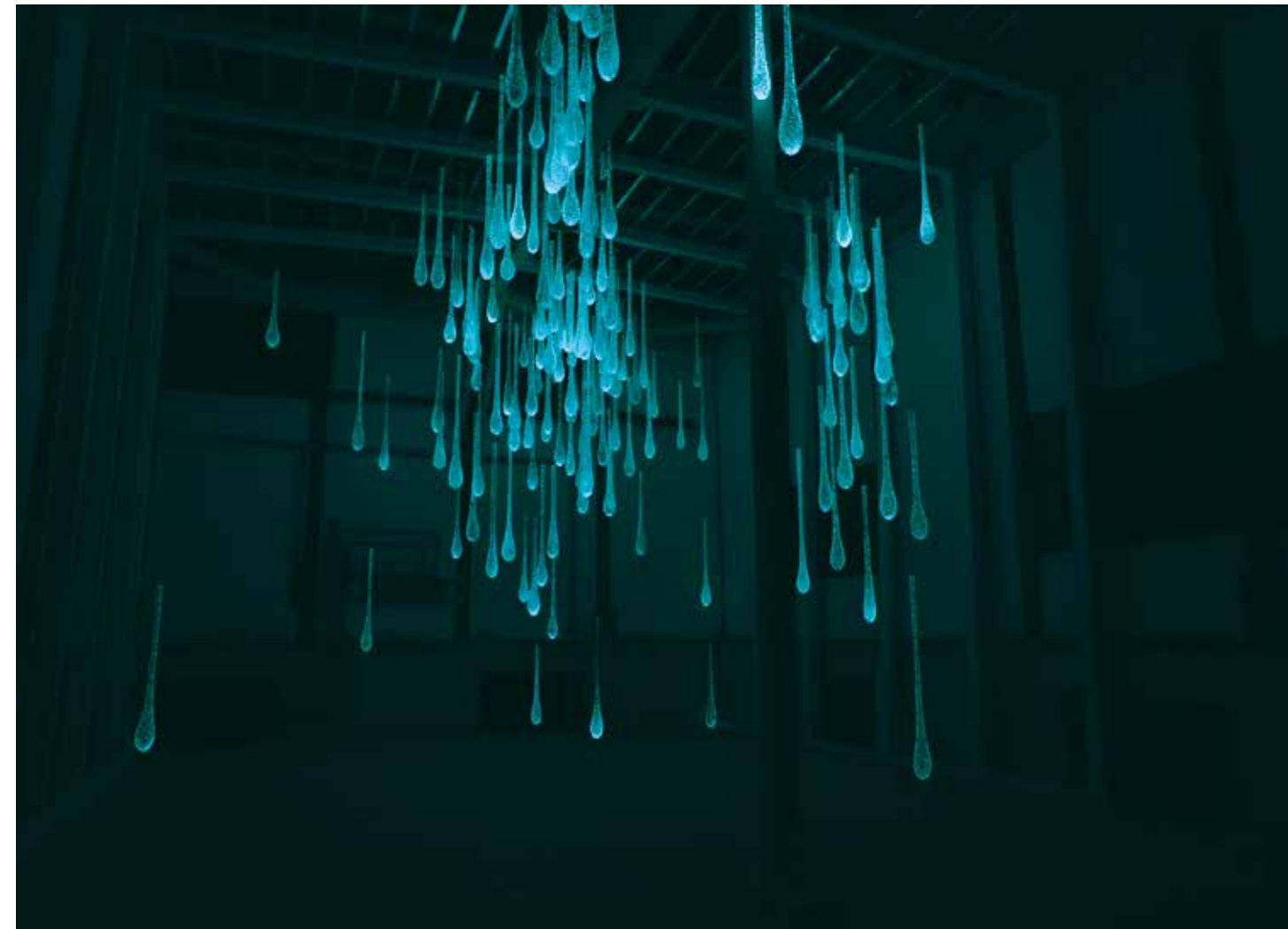
「チョウズマキ」

2017 年 水、ガラス容器、磁石、
プラスチック、デバイス、コントローラー

“Chozumaki”

2017 water, glass containers, magnets,
plastics, devices, controllers





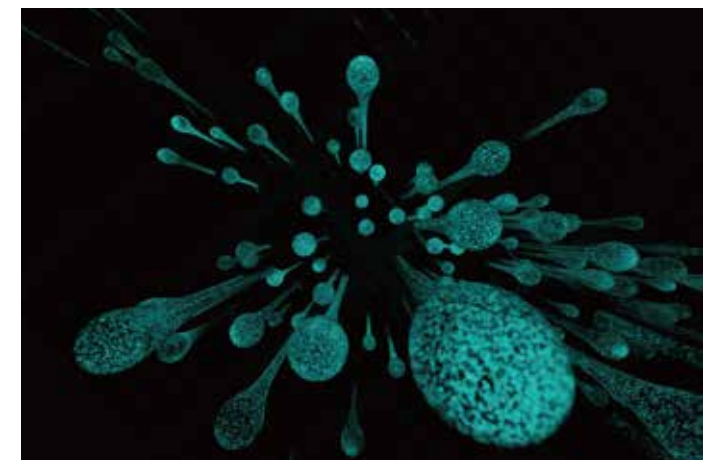
小曾川 瑠那 Kosogawa Runa

「けしきを織る | 近江 2022」

2022 年 ガラス、苧麻の手績糸、近江の麻の残糸、近江八幡市内で採取した植物や石、
空気など／バーナーワーク、エングレーヴィング、接着／照明制作：市川 平

“Weaving Scenery -Omi, 2022”

2022 glass, ramie handspun yarn, leftover Omi hemp yarn, plants and stones collected in Omihachiman, air, etc. /
burner work, engraving, bonding / lighting by Ichikawa Taira



佐々木 類 Sasaki Rui

「Liquid Sunshine / 水の記憶」

2022 年 ガラス、蓄光物質／吹きガラス／ライト、スイッチ

“Liquid Sunshine / Reminiscences of the water”

2022 glass, phosphorescent substance / blown glass / light, switch



市川 平 Ichikawa Taira

「クーリングタワーズ」 1993~2022年 ミクストメディア

"Cooling towers" 1993~2022 mixed media





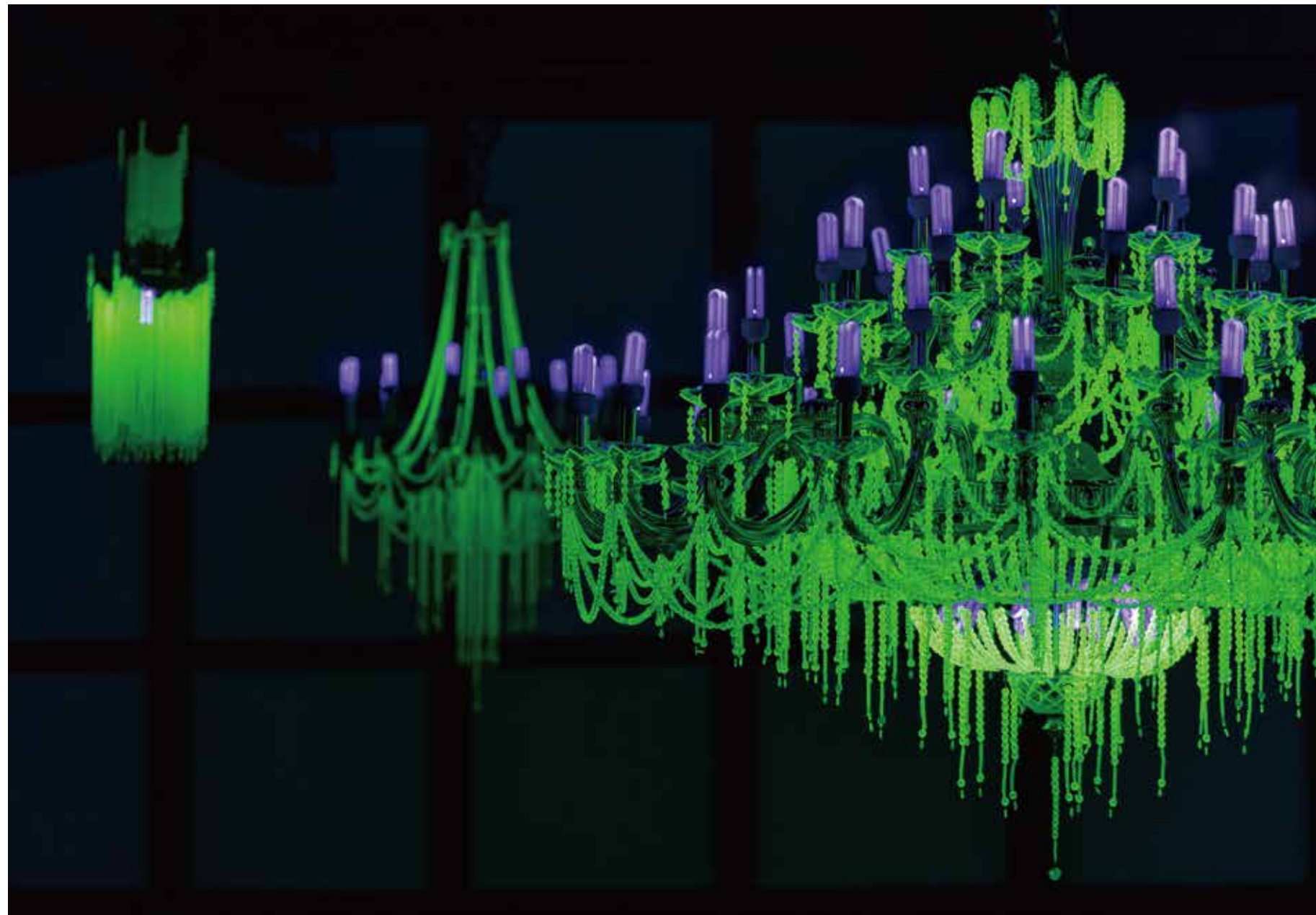
米谷 健 + ジュリア Ken + Julia Yonetani

「Dysbiotica」2020~2022 年 セラミックス

"Dysbiotica" 2020~2022 ceramics



*



「クリスタルパレス：万原子力発電国産業製作品大博覧会」

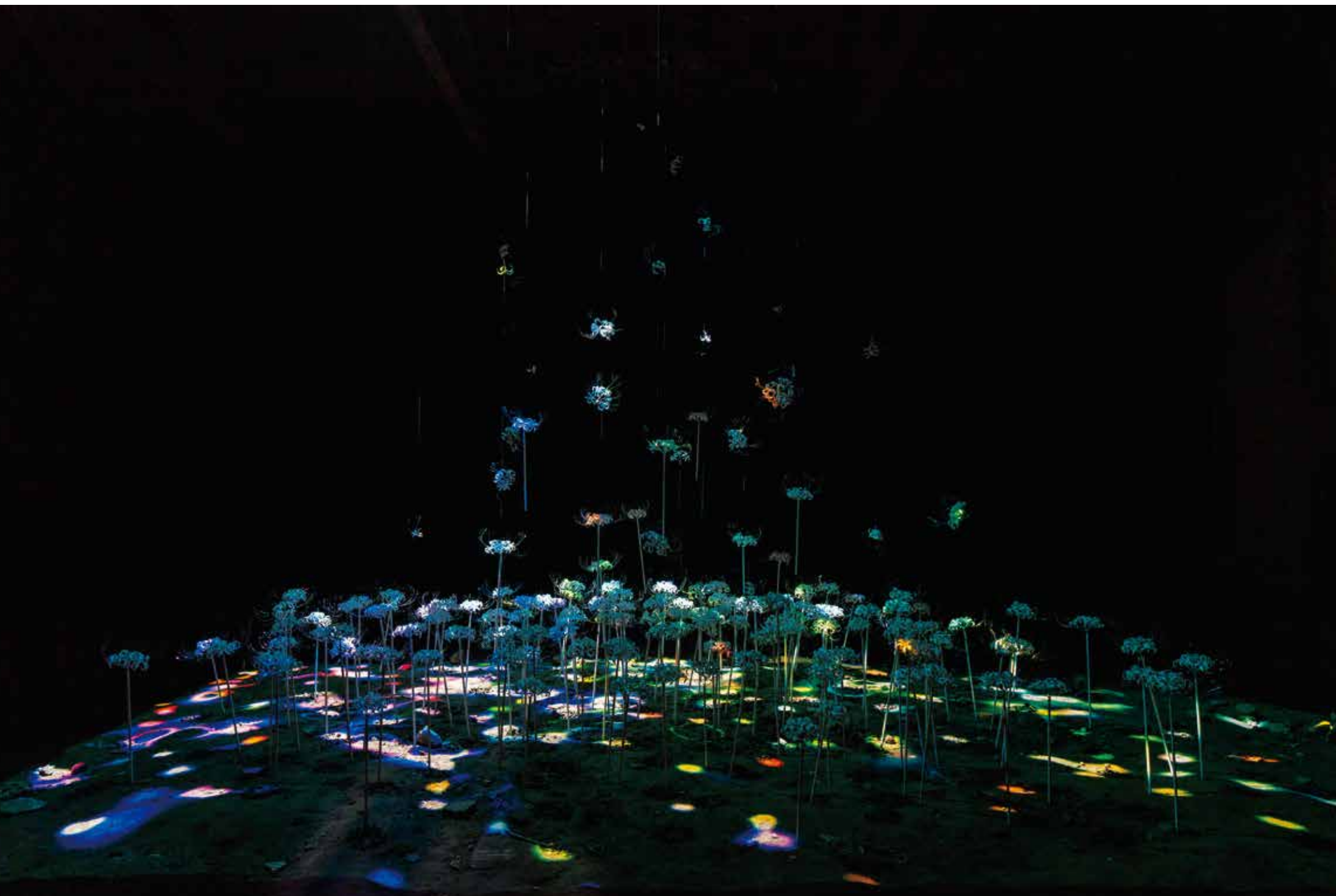
2011~2015 年 ウランガラス、シャンデリアフレーム、ブラックライト

"Crystal Palace: The Great Exhibition of the Works of Industry of all Nuclear Nations"

2011~2015 uranium glass, chandelier frame, blacklight



*



saiho + 林 イグネル 小百合 saiho + Hayashi Egnell Sayuri

「幻象の庭」2022年 映像、サウンド、レジン、ワイヤー、プロジェクター、スピーカー
 "Imagery Garden " 2022 video, sound, resin, wires, projector, speakers

「Beyond the Ocean - 2022」2022年 映像、サウンド、ガラス瓶、付箋、ワイヤー、プロジェクター、スピーカー
 "Beyond the Ocean - 2022" 2022 video, sound, glass bottles, sticky notes, wires, projector, speakers

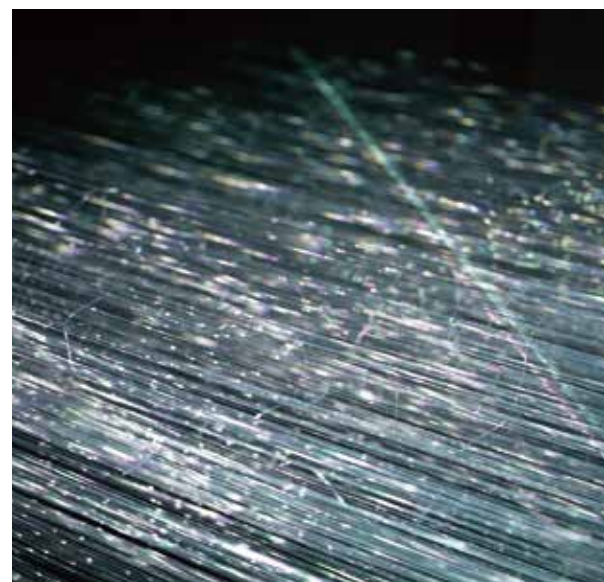




アトリエシムラ atelier shimura

「心の湖」2022年 絹糸、植物染料

"Lake of the Heart" 2022 silk yarn, vegetable dye



サークルサイド circle side

「trace the space」

2022年 ミクストメディア／映像インスタレーション／プロジェクター、スピーカー

"trace the space"

2022 mixed media / video installation / projectors, speakers





宇野 裕美 Uno Hiromi

「繭 蔵」2022年 2Way ニット、フック

「癒しの部屋」2022年 2Way ニット、フック

"The cocoon kura (storehouse)" 2022 stretchable cloth, hooks

"The healing room" 2022 stretchable cloth, hooks



井上 剛 Inoue Tsuyoshi

「ヒのマ - 揺蕩 -」2022年 フロートガラス

「0<1<0」2004年 ガラス

"waving light" 2022 float glass

"0<1<0" 2004 glass





横山 翔平 Yokoyama Shohei

「静を孕む 05」 2017 年 ガラス／宙吹き
 "Filling with silence 05" 2017 glass / airblown



海野 厚敬 Unno Atsutaka

「3つの魔法」

2022 年 油彩、アクリル絵具、木炭、パステル、綿布

"3 magic"

2022 oil paint, acrylic paint, charcoal, pastel, cotton cloth



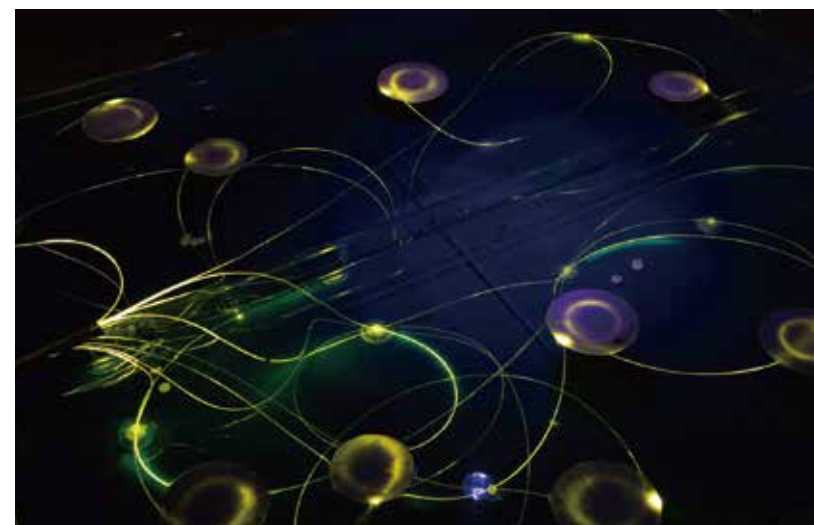
草木 義博
Kusaki Yoshihiro

「菖蓮の休息」

2022 年 陶、光ファイバー照明

"Relaxation of SUIREN"

2022 ceramics, fiber optic lighting





江頭 誠 Egashira Makoto

「ブランケットが薔薇でいっぱいⅣ」

2022年 毛布、ミクストメディア

"Blanket full of roses IV"

2022 blanket, mixed media





給田 麻那美 Kyuta Manami

「ひよこ牧場」
2022 年 陶器、漆、金箔、金粉、岩絵具、水干絵具

“Chick Farm”
2022 ceramic, lacquer, gold leaf, gold powder, mineral pigment, dyed mud pigment



田中 太賀志
Tanaka Takashi

「雨宿り」2022 年 鉄
“shelter from the rain” 2022 iron



坂本 太郎 Sakamoto Taro

「Voice - 螺 - 」
2019 年 樟、ボルト、ナット、黒鉛／木彫り
"Voice -Screw-"
2019 camphor, bolts, nuts, graphite / wood carving



浅野 暢晴 Asano Nobuharu

「琵琶湖百鬼夜行」
2021~2022 年 陶
"Night Parade of One Hundred Tricksters in Biwako"
2021-2022 ceramic





秋永 邦洋 Akinaga Kunihiro

「朧気 (兎)」 2022 年 陶器 “vague (Rabbit)” 2022 ceramic

「朧気 (獅子)」 2022 年 陶器 “vague (Lion)” 2022 ceramic

「朧気 (猫)」 2020 年 陶器 “vague (Cat)” 2020 ceramic

「朧気 (犬)」 2022 年 陶器 “vague (Dog)” 2022 ceramic

「朧気 (狼)」 2022 年 陶器 “vague (Wolf)” 2022 ceramic

「朧気 (狐)」 2022 年 陶器 “vague (Fox)” 2022 ceramic

「朧気 (鳳凰)」 2022 年 陶器 “vague (Phoenix)” 2022 ceramic

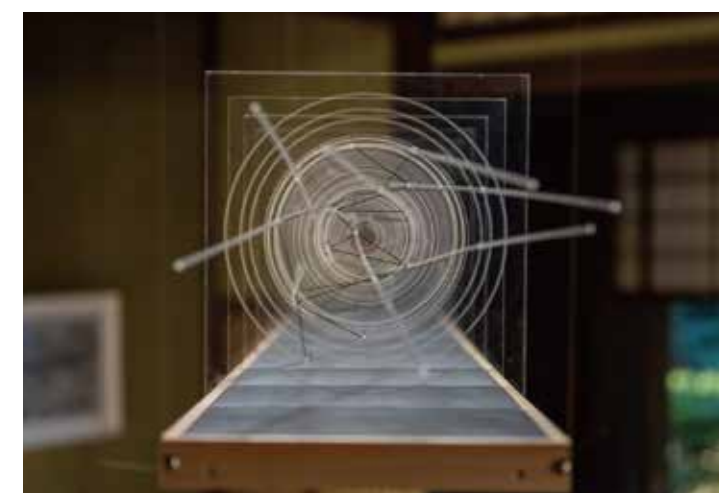
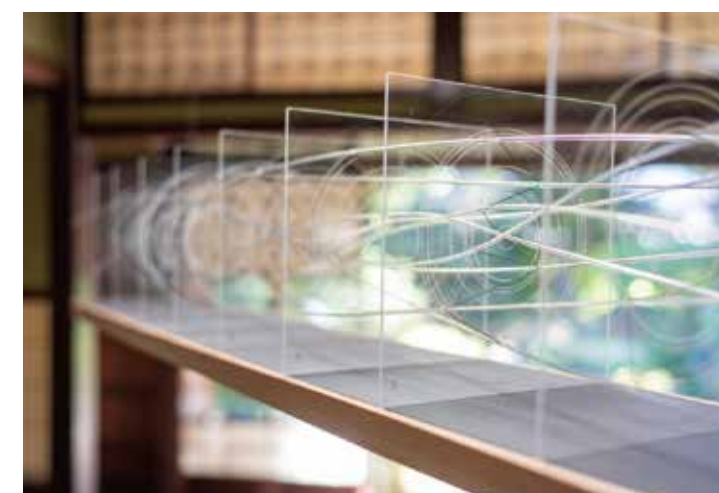
「朧気」 2022 年 陶器 “vague” 2022 ceramic



パンチョ・フランソワ・キリシ Pancho François Quilici

「les 9 trajectoires」 2017年 アクリル構築、プリント
 「20 événements liés」 2022年 紙、ミクステクニク

"les 9 trajectoires" 2017 acrylic construction, numeric print
 "20 événements liés" 2022 mixed techniques on paper





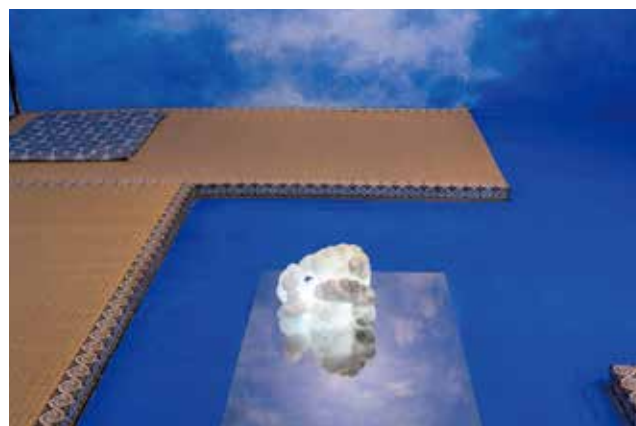
ジュリアン・シニョレ Julien Signolet

「円空」

2022 年 漆喰、青顔料、ステンレス、アラバスター、石膏

“ENKU”

2022 shikkui, blue pigments, inox, alabaster, plaster



あわ屋 + Kikoh Matsuura AWAYA + Kikoh Matsuura

「消失するバイアス」

2022 年 スピーカー、木材、照明、音楽再生装置、アンプ、ほか

“Vanishing Bias”

2022 speakers, wood, lighting, music reproduction equipment, amplifiers, etc.



米津 真理奈 Yonetsu Marina

「通り雨」

2022 年 ガラス、スチール、樹脂／バーナーワーク、溶接／LED

“passing shower”

2022 glass, steel, resin / burner work, welding / LED



*

ロバート・ハイス Robert Hais

「The Reverse Odyssey」

2022 年 光、音

“The Reverse Odyssey”

2022 light, audio





君平 Kumpei

「槍霞」

2022 年 ビデオ・インスタレーション／2チャンネル・ビデオ（HD デジタル、カラー、サウンド）、関連資料

“YARIGASUMI”

2022 video installation / 2-channel video (HD digital, color, sound), related documentation

TSURUGI [ACCOON HIBINO]

「“起源”」 2022 年 レーザープリントフィルム、QR コード読み込み音楽

“ORIGIN” 2022 laser print film, music (accessible via QR code)



*



細井 篤 Hosoi Atsushi

「小泉門 2章 八咫うさぎ -001」2022年 ステンレスパイプ、FRP

「小泉門 2章 あまてる -02」2022年 ステンレスパイプ、FRP

「しづく」2017年 ステンレス

「知らない誰かを思う（双子の秘密）_000」不詳 木（テーブル）

「小泉門 20」不詳 真鍮、FRP

「小泉門」不詳 真鍮、FRP

“Posterior Fontanelle - Chapter 2 _ Yaata Usagi-001” 2022 stainless steel pipe, FRP

“Posterior Fontanelle - Chapter 2 _ Amateru-02” 2022 stainless steel pipe, FRP

“Drop” 2017 stainless steel

“Thinking of someone you don't know (twin secrets)_000” Production year unknown wood (table)

“Posterior Fontanelle 20” Production year unknown brass, FRP

“Posterior Fontanelle” Production year unknown brass, FRP



田中 哲也 Tanaka Tetsuya

「時器 TOKI - 光の器 記憶の器 永遠の器」

2022年 ミクストメディア 信楽透土、蓄光材、葉（一部現地で採取）、UVライト、スイッチタイマー

“TOKI - Vessels for Lights, Vessels for Remembrances, Vessels for Eternity”
2022 mixed media, Shigaraki permeable clay, phosphorescent material, leaves (some collected locally), UV light, switch timer



田辺 磨由子 Tanabe Mayuko

「どうなんのうみ」
2022年 流木、与那国産赤土、サンゴ
“Sand sea”
2022 driftwood, red soil from Yonaguni, coral



西島 雄志
Nishijima Yuji

「吉祥 kichi-shou」
2021年 銅線、ステンレスワイヤー
“kichi-shou” 2021
copper wire, stainless steel wire

**



本郷 芳哉 Hongo Yoshiya

「存在の空白－坐廓」 2021年 アルミニウム

「存在の空白－坐佇」 2022年 アルミニウム

"The void of existence" 2021 aluminium

"The void of existence" 2022 aluminium



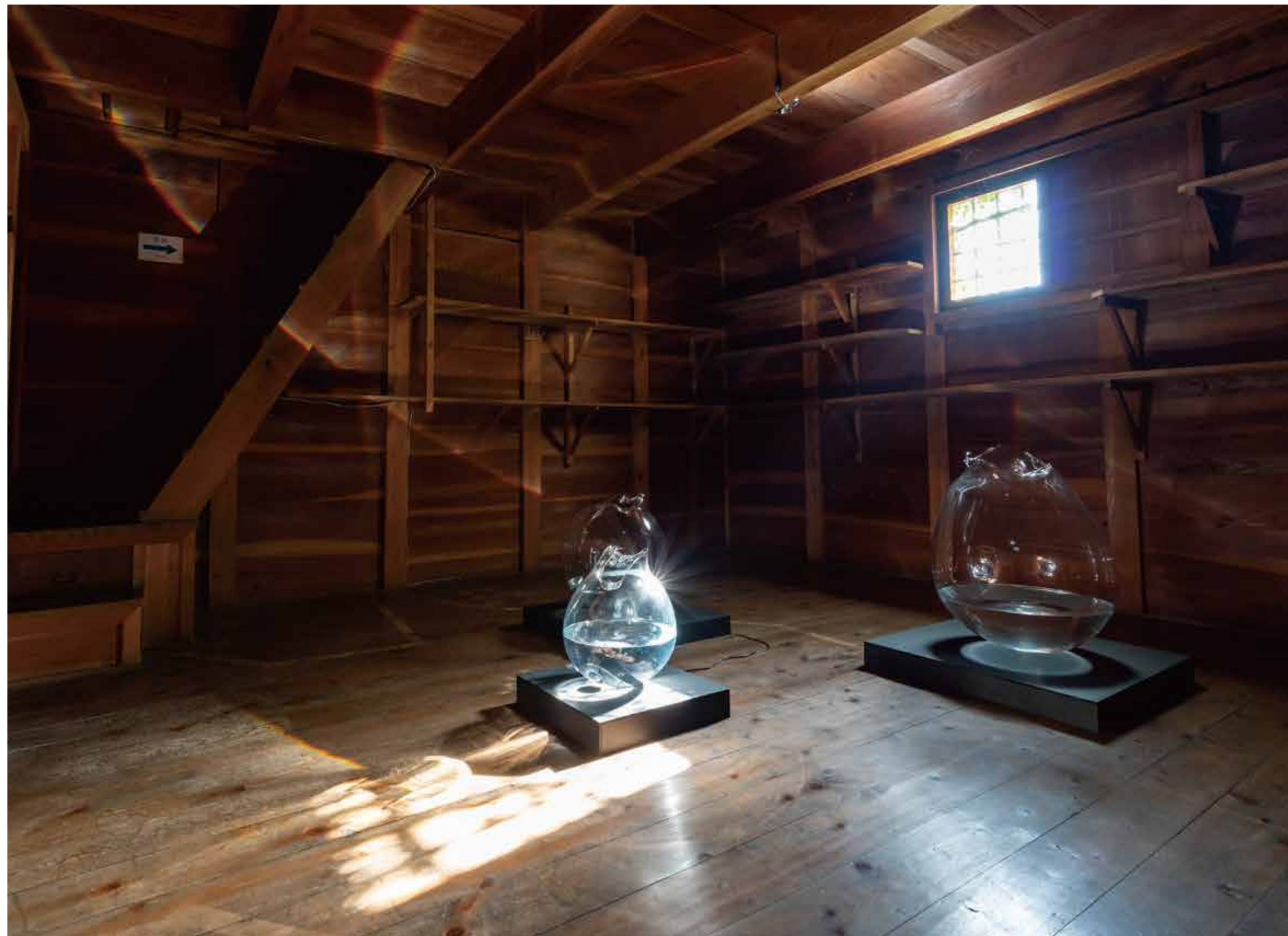


アン・エリングスタム Ann Eringstam

「The Course of Nature」
 2022 年 写真、ライトボックス
 “The Course of Nature”
 2022 photography installed in lightboxes

本郷 芳哉 Hongo Yoshiya

「Appearance」2022 年 アルミニウム
 “Appearance” 2022 aluminium



赤松 音呂 + 横山 翔平 Akamatsu Nelo + Yokoyama Shohei

「始まりはゼロより小さい」
2022 年 ガラス、水、電子デバイス
"Less Than Zero at The Beginning"
2022 glass, water, electronic device





亘 章吾 Watari Shogo

- 「蕾環Ⅴ」 2022年 吉野檜／積層曲木
- 「蕾環Ⅶ」 2022年 吉野檜／積層曲木
- 「蕾環Ⅷ」 2022年 吉野檜／積層曲木
- 「鏡像の破れⅠ」 2021年 吉野檜／積層曲木
- 「鏡像の破れⅣ」 2022年 吉野檜／積層曲木
- 「環Ⅰ」 2021年 吉野檜／積層曲木
- 「無題」 2021年 吉野檜／積層曲木

- "Blossom Ring V" 2022 hinoki / laminated bent wood
- "Blossom Ring VII" 2022 hinoki / laminated bent wood
- "Blossom Ring VIII" 2022 hinoki / laminated bent wood
- "Breaking of the Reflection I" 2021 hinoki / laminated bent wood
- "Breaking of the Reflection IV" 2022 hinoki / laminated bent wood
- "Kan I" 2021 hinoki / laminated bent wood
- "Untitled" 2021 hinoki / laminated bent wood



エヴァ・ペトリッチ Eva Petrič

「Incubator of e@motions, we all originate from this heart」

2019 年 リサイクルレースのアッサンブラージュ、手吹きガラスの心臓

“Incubator of e@motions, we all originate from this heart”

2019 recycled lace assemblage, hand-blown glass heart





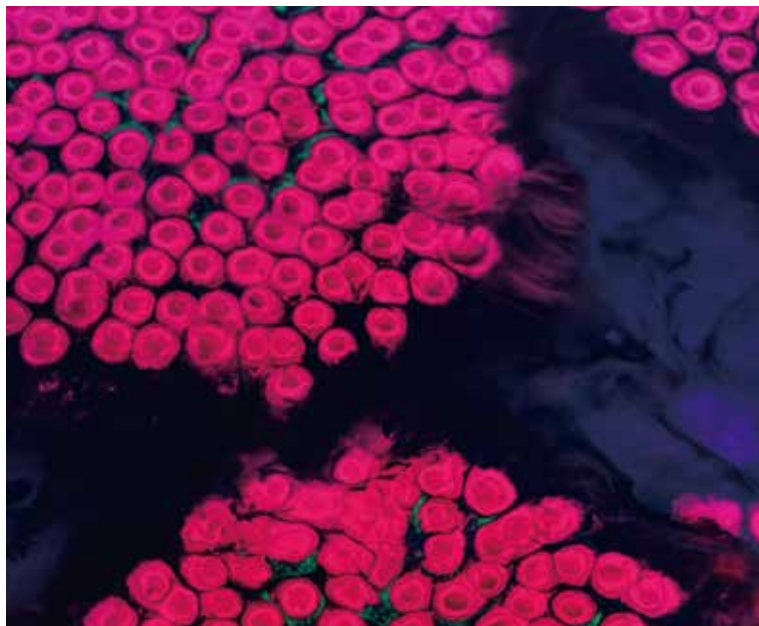
うら ゆかり Ura Yukari

「界」
2022 年 和紙、糊、胡粉ジェッソ、紙紐、他
“KAI”
2022 Japanese paper, glue, gofun gesso, paper string, etc.



岩崎 萌森 Iwasaki Memori

「織 編 結 反と畳」
2022 年 パンチカーペット、麻糸／織り、編み、結び／機織り機
“weave knit tie cloth and tatami”
2022 punch carpet, hemp yarn / weaving, knitting and knotting / loom weaving machine



河合 晋平 Kawai Shimpei

「ポリプレプ」 2022 年 絵具、プラ板、他
 "Polyprep" 2022 paint, plastic board, etc.



Kikoh Matsuura

「Conduction」 2022 年 アクリル/写真
 "Conduction" 2022 acrylic / photograph



Okishima
沖島

琵琶湖の沖合約1.5kmに浮かぶ沖島は、徒歩でひと回りしても2時間程度という小さな島です。沖島の歴史は古く、延喜式内社として記されている奥津島神社の建立当時は、琵琶湖の航行の安全を守る神の島として崇拝される無人島だったそう。現在でも漁業が盛んで、琵琶湖の豊かな自然も残っています。島に流れるゆったりとした時間は、訪れる旅人たちを魅了します。



源弥亭
GENYATEI
沖島らしい漁師の家。島の道幅が狭く、細い路地に民家が立ち並んでいる。

O-11



公園
Public Park
島の人が日常的に利用する沖島の公園。

O-12



島に点在
Scattered around the island
●山神社
Yamagami Shrine
●展望台
Viewing Platform
●カフェ 汀の精
Cafe MIZUNOSEI
●小学校校庭
Okishima Elementary School Grounds
●蔵島神社
Itsukushima Shrine
周囲約7km、人口約240人という小さな沖島には、漁師を生業とする方々が多く住んでいる。

O-13



廃船
Decommissioned Ship
道路が狭いため、沖島に車は一台もない。そのため一家一艘の船は、車の代わりに漁や対岸への交通を担っている。

O-14



栈橋
Pier
沖島の暮らしは半漁半農で成り立っており、漁業も盛ん。釣り目的で訪れる人も多い。

O-15



沖島漁協組合
作業場 (2F)
Okishima Fishery Cooperative Association Workshop 2F
漁業に使う網の修理など漁師たちが使用する作業場。沖島では、湖魚の種類により、さまざまな漁法で漁が行われている。

O-16



小西 葵 Konishi Aoi

「漂流するなにか そらとだいちとふれあうかなた そっとふりむいていたのかもしれないなにか」

2022 年 ミクストメディア

"Something drifting"

2022 mixed media



芦澤 竜一 Ashizawa Ryuichi

「流木ハット」

2019 年 流木

"RYUBOKU HUT"

2019 driftwood



石川 雷太 Ishikawa Raita

「Fragment Project」 1997~2022 年 インスタレーション、鉄、木、チョーク、アクリル、他

「True romance」 2022 年 インスタレーション、鉄、木、チョーク、アクリル、他

「アニミズム サークル」 2022 年 鉄、アクリル テキスト協力：荒木 重雄（高野山真言宗僧侶、元桜美林大学教授）

“Fragment Project” 1997~2022 installation, iron, wood, chalk, acrylic, etc.

“True romance” 2022 installation, iron, wood, chalk, acrylic, etc.

“animism circle” 2022 iron, acrylic text by Araki Shigeo (Koyasan Shingon priest, former professor at J. F. Oberlin University)



君平 Kumpei

「プランクトン」

2015 年 鉄 ウレタン塗装

“Plankton”

2015 iron, urethane paint



中田 ナオト Nakada Naoto

「のび太の気持ち ーしずかにー」2022 年 陶

「少年ジャンプー」2022 年 映像、モニター、DVD

「こいすくい」2022 年 陶、木材、他

「真昼のランデブー」2022 年 B0 タペストリー、木材、他

「波打ち際ボーイフレンド」2022 年 タイル、木材、他

「はい! ~海のものとも山のものとも~」2022 年

沖島の湖畔で拾った陶片・ガラス片、漆、真鍮、木材、他

「道程 ~三つ編みおさげ~」2022 年 植木鉢、縄跳び、他

「やまなみ」2022 年 沖島の土、ビニールチューブ

「カモンベイベー」2022 年 モニター、デジタルデータ

「みず・うみ・の・いし」2022 年 バックライトプリント、額、照明他

「恋の筋トレ」2020 年 陶

「素描 ーしろとくろー」2022 年 陶、鉛筆

“Nobita's feeling ーcalmly for Shizuka-chanー” 2022 ceramic

“shampoo for boys” 2022 video, monitor, DVD

“festival game of scooping up love” 2022 ceramic, wood, etc.

“midday rendezvous” 2022 B0 tapestry, wood, etc.

“boyfriend by the waves” 2022 tile, wood, etc.

“Yes! ~ Neither from the sea nor from the mountains ~” 2022

ceramic and glass fragments, lacquer, brass, wood, etc. picked up at the lakeside of Okishima

“The journey ~ braided pigtails ~” 2022 plant pots, jump rope, etc.

“mountain wave” 2022 Okishima soil, plastic tube

“Come on baby” 2022 monitor, digital data

“Lake-stone” 2022 backlight print, frame, light

“Muscle training for love” 2020 ceramic

“dessin -white &black-” 2022 ceramic, pencil

彦根の代名詞ともいえる「彦根城」。井伊家が治めた堅牢な城として有名で、城内のあちこちでその名残をみることができます。また、井伊家35万石の元で栄えた城下町には、大名庭園や博物館など文化的な施設も揃っています。城下町に残された歴史的な建築物がアート展示の舞台。会場を巡りながら、当時から今に繋がる暮らしに思いを馳せてみてはいかがでしょうか。



元 近藤呉服店
彦根エリア総合案内所
Former Kondo Kimono Shop
HIKONE Area Information Desk

180年間続いてきた歴史ある元・老舗呉服店。蔵は座敷蔵のような状態で、残り三棟と一体化している。



伊藤邸
Ito Residence

彦根城京橋口御門から、彦根の宿駅機能を担う伝馬町に通ずる通りの白壁町に現存する唯一の町屋。



スミス記念堂
Smith Memorial Hall

1931年にアメリカ人牧師であるパーシー・アルメリン・スミス氏が建てた登録有形文化財の和風礼拝堂。



楽々園
Rakuraku-en Villa

1677年に建立された彦根藩の二の丸御殿。大書院、地震の間、雷の間など工夫を凝らした部屋が魅力。



彦根城 西の丸 三重櫓
Hikone Castle - Nishi-no-Maru
Three-Story Turret

城内の裏手を守る重要な建物で、空堀に守られ、10m以上の石垣の上に防御に優れた櫓が築かれている。



中野家具2号館
Nakano Furniture Second Store

倉庫を改造した広い空間。2号館ができる前は日用雑貨、寝具を扱う商いが営まれていた。



山の湯 (元銭湯)
YAMA-NO-YU
[Former Public Bath House]

彦根唯一の銭湯跡。1879年に創業してから約140年間銭湯として地域に貢献してきた。



玄宮園
Genkyu-en

江戸文化の贅を尽くした大名庭園。変化に富んだ回遊式庭園は、四季折々によって異なる風景が楽しめる。



彦根城 天秤櫓
The Balance Turret [Tenbin Turret]

上から見ると「コ」の字型をしている、大手門と表門からの道が合流する要の位置に築かれた櫓のこと。



彦根市役所
Hikone City Hall

18の部局等と、およそ80以上の所属(課・室など)が設置されている彦根市の役所。



君平 Kumpei

「濠と瘧」
2022 年 ビデオ・インスタレーション、
2 チャンネル・ビデオ (HD デジタル、
モノクロ及びカラー、サイレント)、ボーリングコア
“Moat and Malaria” 2022 video installation,
2-channel video (HD digital, monochrome and
color, silent), boring core



田中 真聡 Tanaka Masato

「風 戯れる」2022 年 金属、化学繊維、レジン、磁石、モーター
「風を燈す」2022 年 金属、化学繊維、レジン、モーター、電球
「その風の解き明かし」2022 年 金属、化学繊維、レジン、磁石、モーター、LED
「漂泊の記憶」2022 年 金属、化学繊維、モーター、LED
「ポケットの中の風の尻尾」2006 年 金属、ゴムタイヤ、レンズ、パネ、アクリル、モーター、電球
「Bird in the Moon」2016 年 金属、レンズ、半鏡面樹脂シート、モーター
“Winds Frolic as Innocent” 2022 metals, synthetic fiber, resin, magnet, motor
“Light the Wind” 2022 metals, synthetic fiber, resin, motor, lamp
“Clarify the Wind” 2022 metals, synthetic fiber, resin, magnet, motor, LED
“About some memories of adrift in the time” 2022 metals, synthetic fiber, magnet, motor, LED
“The Tails of the Wind Rounded in my Pocket” 2006 metals, rubber tire, lens, spring, acrylic, motor, lamp
“Bird in the Moon” 2016 metals, lens, semi-mirrored resin sheet, motor



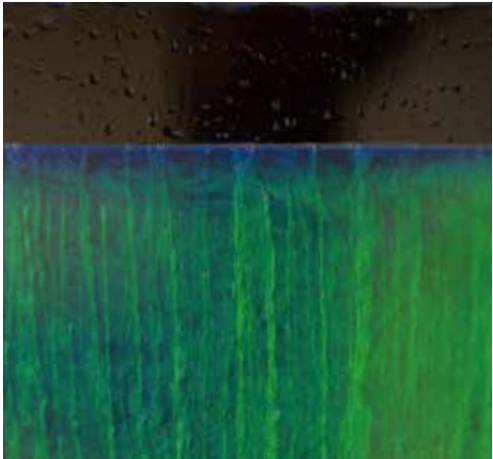
菱田 真史 Hishida Mafumi

「At the Moment」

2022 年 高分子水溶液、アクリル

"At the Moment"

2022 aqueous polymer solution, acrylic

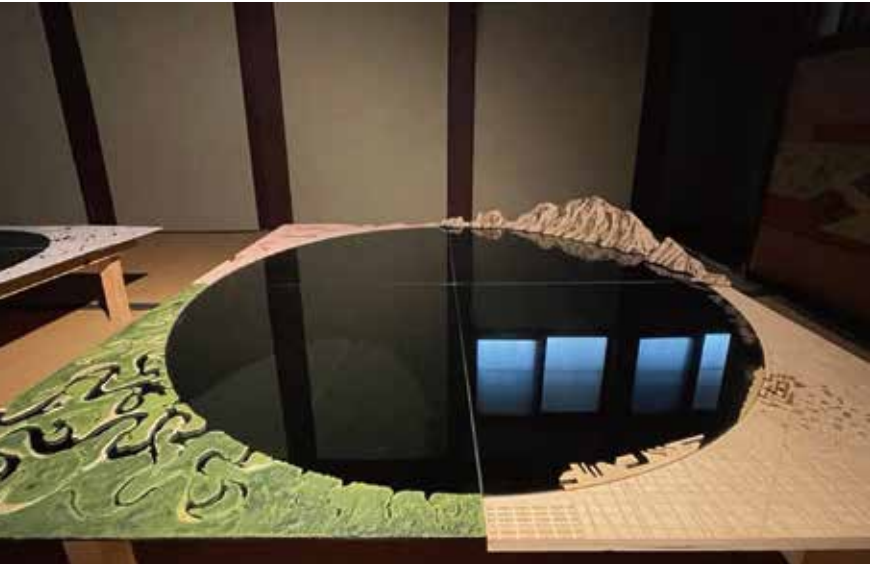


三田地 博史 Mitachi Hiroshi

「Habitat」

2022 年 レーザー光、鏡、DC モータ

"Habitat" 2022 laser beam, mirror, DC motor



マチュー・キリシ Mathieu Quilici

「Géogonie」2022 年 木、鏡、絵の具

"Géogonie" 2022 wood, mirror, paint



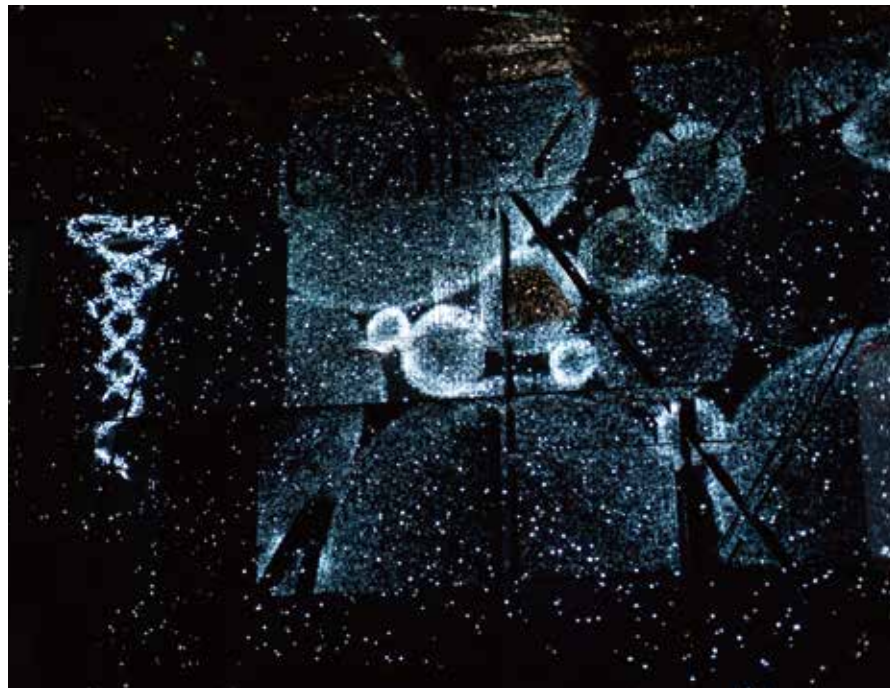
大野 由美子 Ono Yumiko

「Fluctuation」2021年 粘土
 “Fluctuation” 2021 clay



小出 ナオキ Koide Naoki

「tree (house)」2011年 陶
 「Woods & Clouds & Castle」2012~2022年 陶、木
 「In Her Room」2004~2022年 ミクストメディア
 “tree (house)” 2011 ceramics
 “Woods & Clouds & Castle” 2012~2022 ceramics, wood
 “In Her Room” 2004~2022 mixed media



林 勇気 Hayashi Yuki

「Atom -i」 2018 年 プロジェクター、FHD ビデオ

"Atom -i" 2018 projector, FHD video



村松 英俊 Muramatsu Hidetoshi

「on a drum」 2015 年 ドラム缶、大理石

「in the safe」 2015 年 金庫、大理石

「who」 2015 年 大理石

「twins」 2015 年 鋳物、大理石

「globe」 2022 年 地球儀、ライムストーン

「pruning scissors」 2021 年 剪定鋏、石灰岩

「skateboard」 2022 年 スケートボード、大理石、オニキス

「lantern」 2017 年 ランタン、大理石

「tire debris」 2019 年 大理石、アスファルト

「moto」 2022 年 モトコンボ、大理石

「substrate」 2019 年 基盤、大理石、オニキス

「kettle」 2016 年 薬缶、大理石

「hoe」 2021 年 鋤、大理石

「he」 2014 年 大理石

「she」 2012 年 大理石

「handbell」 2022 年 ハンドベル、大理石

"on a drum" 2015 barrel, marble

"in the safe" 2015 safe, marble

"who" 2015 marble

"twins" 2015 metal cast, marble

"globe" 2022 globe, limestone

"pruning scissors" 2021 pruning scissors, limestone

"skateboard" 2022 skateboard, marble, onyx

"lantern" 2017 lantern, marble

"tire debris" 2019 marble, asphalt

"moto" 2022 motocompo, marble

"substrate" 2019 substrate, marble, onyx

"kettle" 2016 kettle, marble

"hoe" 2021 hoe, marble

"he" 2014 marble

"she" 2012 marble

"handbell" 2022 handbell, marble



伊藤 幸久 Ito Yukihiisa

「若い栽培者」2022年 陶

「数度目の身支度」2022年 陶、アクリル塗料

「インベーダーズ」2019~2021年 FRP（ジェスモナイト）、透明エポキシ樹脂、アクリル塗料

「過免疫」2022年 陶、釉薬

"A young grower" 2022 ceramic

"Habitual makeup" 2022 ceramic, acrylic paint

"Invaders" 2019~2021 FRP (Jesmonite), transparent epoxy resin, acrylic paint

"Hyperimmune" 2022 ceramic, glaze



大野 宏 Ohno Hiroshi

「Naiko -hinode-」 2022 年
 ヨシ、ヨシストランドボード、スチール、杉、桧
 “Naiko -hinode-” 2022
 reed, reed strand boards, steel, cedar, hinoki



大野 宏 + 三田地 博史 Ohno Hiroshi + Mitachi Hiroshi

「浮山水」 2022 年 アクリル、石 / 3D プリント
 “Floating Landscape” 2022 acrylic, stone / 3D print



池原 悠太 Ikehara Yuta

「端午の花」 2021 年
 ミクストメディア（デジタルプリント、メディウム、水彩、顔彩、岩絵具）
 「まなざし」「静けさを想う」「泡沫の声」 2021 年
 「崩れゆく」「廻転」 2022 年
 ミクストメディア（デジタルプリント、メディウム、顔彩、岩絵具）
 “May flower” 2021
 mixed media (digital printing, medium, watercolor, pigments)
 “Gaze” “Thinking of serenity” “Fleeting Voice” 2021
 “Crumbling” “Rotation” 2022
 mixed media (digital printing, medium, pigments)



照明制作：市川 平
 Lighting：Ichikawa Taira



沙羅双樹 Sarasoju

「湯源郷」 2022 年
 観葉植物、音源（サウンドガーデン 528）
 “Shangri-La” 2022
 live plants, sound (sound garden 528)

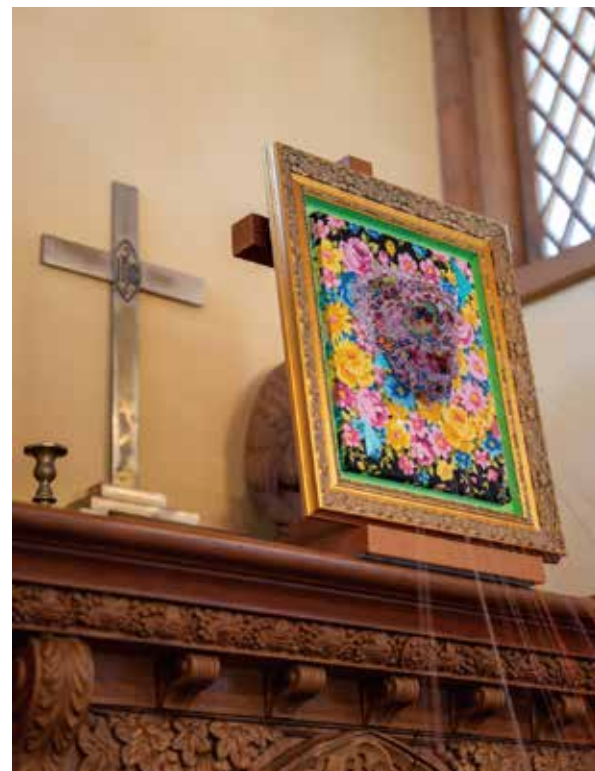




江頭 誠 Egashira Makoto

「いっしょになかよしバスタイム」2020年 毛布、ミクストメディア

"Happy together in the bath" 2020 blanket, mixed media



宮田 彩加 Miyata Sayaka

「Signal II - ウィリアム・モリスへのオマージュ -」2018年

「Signal -skull001 α -」2018年

「Signal -skull001 β -」2018年

「Signal -skull001- γ 」2018年

「Signal -skull001 δ -」2018年

ミシン糸・綿布、金彩フィルム、木製パネル/ミシン刺繍

"Signal II -Homage to William Morris-" 2018

"Signal -skull001 α -" 2018

"Signal -skull001 β -" 2018

"Signal -skull001- γ " 2018

"Signal -skull001 δ -" 2018
sewing thread, cotton cloth, gilt film,
wooden panel / sewing machine embroidery



*



*

細井 篤 Hosoi Atsushi

「月のペリカン笑うゾウ」

2022 年 ステンレスパイプ、FRP、マジョーラ塗装

"The story of "The Laughing Elephant and the Pelican on the Moon""

2022 stainless steel pipe, FRP, majora coating

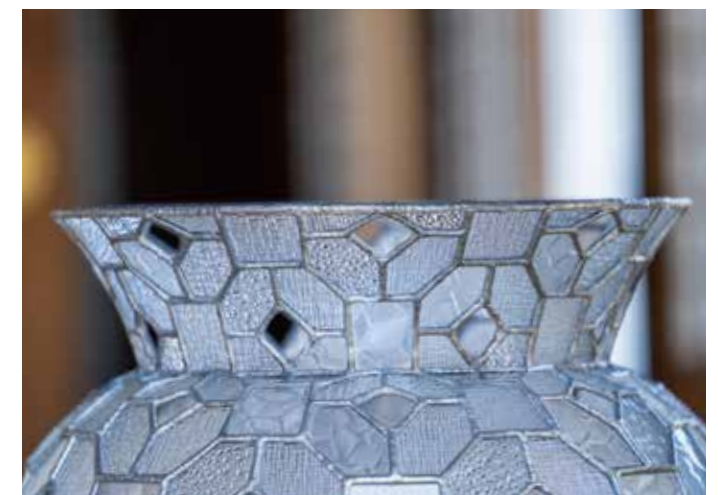




野田 拓真 Noda Takuma

「PARADISE」 2022 年 和紙に顔料、パール／版画

“PARADISE” 2022 pigment and pearl on Japanese paper / print



度會 保浩 Watarai Yasuhiro

「庭」 2021～2022 年 ガラス／ステンドグラス

“garden” 2021～2022 glass / stained glass



池原 悠太 Ikehara Yuta

「白き西の紅葉」2022年 ミクストメディア
「黒き北の積雪」2022年 ミクストメディア
「泰平」2022年 ミクストメディア

“Baihu” 2022 mixed media
“Xuanwu” 2022 mixed media
“Qilin” 2022 mixed media



オージック AUJIK

「Mycelium」
2022年 ビデオインスタレーション（約15分、4K）
“Mycelium”
2022 video installation (ca. 15 min, 4K)



三木 サチコ Miki Sachiko

THE ROOM FOR 4D MUSHROOMS
「LEFT OUT」2019年 F.R.P に彩色
「mushboyII (ZUIRYUUJI)」2018年 F.R.P に彩色
「mushboyII (picky)」2018年 F.R.P に彩色
「mummry mushroom1」2017年 F.R.P に彩色
「mummry mushroom2」2017年 F.R.P に彩色
「mummry mushroom3」2017年 F.R.P に彩色
「Candy（桜冬）」2020年 F.R.P に彩色

THE ROOM FOR 4D MUSHROOMS
“LEFT OUT” 2019 colored FRP
“mushboyII (ZUIRYUUJI)” 2018 colored FRP
“mushboyII (picky)” 2018 colored FRP
“mummry mushroom1” 2017 colored FRP
“mummry mushroom2 ” 2017 colored FRP
“mummry mushroom3” 2017 colored FRP
“Candy (cherry blossom winter)” 2020 colored FRP



イシャム・ベラダ Hicham Berrada

「Presage」2021年 ビデオ

"Presage" 2021 video



奥中 章人 Okunaka Akihito

「INTER-WORLD/SPHERE」

2022年 石油由来フィルム (PET)、ファン

"INTER-WORLD/SPHERE"

2022 petroleum-derived film (PET film), fan



鳥居本

Torimoto

豊かな自然と旧中山道の宿場町として栄えた鳥居本。江戸時代に中山道の宿場町が誕生すると、佐和山麓の村々が街道沿いに移転し、街道を中心とした鳥居本宿場町が形成されました。町を歩くと、旅籠や商家が栄えていた当時の風景がまざまざと想像できます。また、腹薬「赤玉神教丸」でよく知られている、町の北端近くにある有川家（有川製薬）は、2022年見どころの会場です。



鳥居本駅舎

Torimoto Station

赤瓦に腰折れ屋根を持つ洋館建築の駅。鳥居本は、中山道六十七次で63番目の宿場町だった。



木綿屋（元合羽店）

Momen'ya [Former Raincoat Shop]

創業は1720年。当時、鳥居本の宿場町で、腹痛の薬・神教丸と共に旅人に愛用されたのが「雨合羽」だった。雨の多い木曽路に向かう旅人が買い求めたそう。



有川家

（明治天皇鳥居本御小休所）

Arikawa Residence

腹痛、食傷、下痢止めとして有名な「赤玉神教丸」。350年以上製薬してきた有川製薬の歴史を物語る。



有川家住宅別邸

Arikawa Private Residence

18世紀の初めに本家から分家し、隣地に構えた住宅。上段の間がある良質な書院が増築されている。



三木 サチコ Miki Sachiko

Flower-neck (TORIIMOTO Ver.)

「Have a nice day」2022年 F.R.P.に彩色

「Flower-neck (have a nice trip) fresh green」2022年 F.R.P.に彩色、鉄

「Flower-neck (have a nice trip) magenta」2022年 F.R.P.に彩色、鉄

「Flower-neck (welcome back) 紅藤」2022年 F.R.P.に彩色、鉄

「Flower-neck (welcome back) 海松茶」2022年 F.R.P.に彩色、鉄

Flower-neck (TORIIMOTO Ver.)

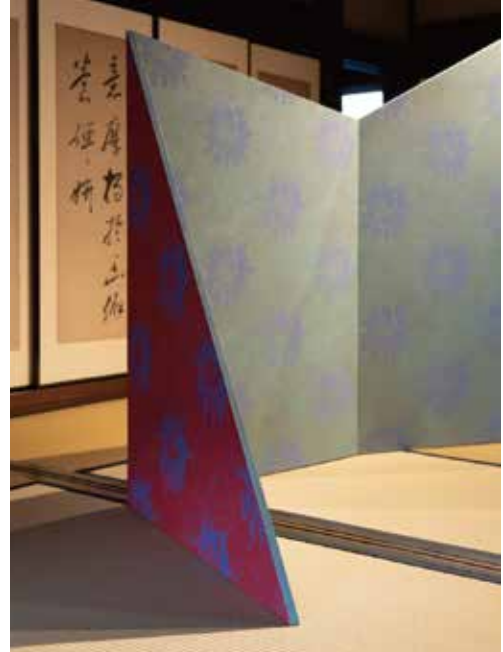
“Have a nice day” 2022 colored FRP

“Flower-neck (have a nice trip) fresh green” 2022 colored FRP, iron

“Flower-neck (have a nice trip) magenta” 2022 colored FRP, iron

“Flower-neck (welcome back) benifuji” 2022 colored FRP, iron

“Flower-neck (welcome back) mirucha” 2022 colored FRP, iron



野田 拓真 Noda Takuma

「REASON」2022年 和紙に顔料・パール／版画

“REASON” 2022 pigment and pearl on Japanese paper / print



度會 保浩 Watarai Yasuhiro

「庭」2021～2022年 ガラス／ステンドグラス

“garden” 2021～2022 glass / stained glass



塩見 亮介 Shiom Ryosuke

「茶絲素懸絨威山狗胴具足」 2019 年 銅、鉄、真鍮、革、紐、漆、桧

「狐面附面頬」 2017 年 真鍮、鉄、革、紐、漆、杉

「猪面附面頬」 2019 年 銅、鉄、真鍮、革、紐、漆、杉

「鷲面附面頬〔達磨〕」 2020 年 銅、鉄、真鍮、革、紐、漆、杉

「狐面附面頬〔影〕」 2021 年 銅、鉄、真鍮、革、紐

「鷲面附茶絲素懸絨兜袖〔扇〕」 2020 年 銅、鉄、真鍮、革、紐、漆

「贖罪と覚悟の甲冑」 2014 年 銅、鉄、真鍮、革、紐、布、漆、楓

「虚栄ノ一角」 2014 年 銅、鉄、真鍮、革、紐、布、紫檀

“Armor of Wolf” 2019 copper, iron, brass, leather, string, lacquer, cypress

“Mask of Fox” 2017 brass, iron, leather, string, lacquer, cedar

“Mask of Boar” 2019 copper, iron, brass, leather, string, lacquer, cedar

“Mask of Eagle ‘Bodhidharma’” 2020 copper, iron, brass, leather, string, lacquer, cedar

“Mask of Fox ‘Shadow’” 2021 copper, iron, brass, leather, string

“Mask of Harpy Eagle” 2020 copper, iron, brass, leather, string, lacquer

“Armor of Atonement and Resolution” 2014 copper, iron, brass, leather, string, cloth, lacquer, maple

“Horn of Vanity” 2014 copper, iron, brass, leather, string, cloth, rosewood





西島 雄志 Nishijima Yuji

「神鹿 shin-roku #1」 2021 年 銅線、真鍮、鏡、テグス

「神鹿 shin-roku #2」 2022 年 銅線、鉄、鏡

「瑞雲 zui-un」 2022 年 銅線、真鍮、鏡、テグス

“deified deer #1” 2021 copper wire, brass, mirror, nylon

“deified deer #2” 2022 copper wire, iron, mirror

“zui-un” 2022 copper wire, brass, mirror, nylon





元離宮二条城
二の丸御殿台所・御清所
Nijo Castle in Kyoto
[Ninomaru-goten Palace Daidokoro and Okiyodokoro]

展示の舞台は二条城の台所・御清所です。二条城の二の丸は広い土間と板間が特徴で、土間の一角に竈と流しがありましたが、現在は煙出しが屋根に残るのみとなっています。寺院も含めた台所としては屈指の大きさを誇り、土間と板間が一体となった内部空間の広さは随一です。御清所（おきよどころ）は、台所の南に続く建物で、江戸時代には「御料理間」と呼ばれ、調理を行う場所として使用されていました。台所と御清所がともに城に残っているのは、日本で二条城のみ。広さ4畳の囲炉裏では、料理を温め、調理をした形跡が伺えます。

プレBIWAKOビエンナーレ2022 “起源～ORIGIN” × ニュイ・ブランシュKYOTO

10月1日(土)18:00 - 21:00は、「ニュイ・ブランシュKYOTO 2022」とコラボレーション開催。

| 開催会期 | 2022年9月17日(土)～10月2日(日)

| 会場 | 元離宮二条城二の丸御殿台所・御清所



西島 雄志 Nishijima Yuji

「吉祥 kichi-shou」2021年 銅線

“kichi-shou” 2021 copper wire



池原 悠太 Ikehara Yuta

- 「白き西の紅葉」 2022 年 ミクストメディア
- 「黒き北の積雪」 2022 年 ミクストメディア
- 「泰平」 2022 年 ミクストメディア
- “Baihu” 2022 mixed media
- “Xuanwu” 2022 mixed media
- “Qilin” 2022 mixed media



給田 麻那美 Kyuta Manami

- 「ひよこ と 龍は仲良しこよし」
2022 年 屏風、墨、陶器、漆、金箔、金泥
- “Best Friends”
2022 folding screen, Chinese ink, ceramic, lacquer, gold leaf, gold powder



塩見 亮介 Shiomi Ryosuke

- 「茶絲素懸緋威山狗胴具足」 2019 年 銅、鉄、真鍮、革、紐、漆、桧
- 「狐面附面頬」 2017 年 真鍮、鉄、革、紐、漆、杉
- 「猪面附面頬」 2019 年 銅、鉄、真鍮、革、紐、漆、杉
- 「鷲面附面頬【達磨】」 2020 年 銅、鉄、真鍮、革、紐、漆、杉
- 「狐面附面頬【影】」 2021 年 銅、鉄、真鍮、革、紐
- 「鷲面附茶絲素懸緋兜袖【扇】」 2020 年 銅、鉄、真鍮、革、紐、漆
- 「贖罪と覚悟の甲冑」 2014 年 銅、鉄、真鍮、革、紐、布、漆、楓
- 「虚栄ノ一角」 2014 年 銅、鉄、真鍮、革、紐、布、紫檀
- “Armor of Wolf” 2019 copper, iron, brass, leather, string, lacquer, cypress
- “Mask of Fox” 2017 brass, iron, leather, string, lacquer, cedar
- “Mask of Boar” 2019 copper, iron, brass, leather, string, lacquer, cedar
- “Mask of Eagle 'Bodhidharma'” 2020 copper, iron, brass, leather, string, lacquer, cedar
- “Mask of Fox 'Shadow'” 2021 copper, iron, brass, leather, string
- “Mask of Harpy Eagle” 2020 copper, iron, brass, leather, string, lacquer
- “Armor of Atonement and Resolution” 2014 copper, iron, brass, leather, string, cloth, lacquer, maple
- “Horn of Vanity” 2014 copper, iron, brass, leather, string, cloth, rosewood



ワークショップ

Workshop

WORKSHOP 01



巨大シャボン玉をつくろう！

2022年7月31日(日) @旧伴家住宅庭

アーティスト藤原昌樹氏による屋外ワークショップ。巨大シャボン玉を「消える彫刻」ととらえて、全身を使って制作しました。大人も子どもも参加し、「消える彫刻美術館」を完成させました。

WORKSHOP 03



滋賀の色に出会う-茶の木を染める-

2022年10月16日(日) @旧伴家住宅庭

アトリエシムラによる、草木の色を一枚の絹ストールに染めるワークショップ。今回の染料は、滋賀県東近江市奥永源寺地域で600年以上続く「政所茶」の茶の木を使用しました。

WORKSHOP 02



のびる布でロゼットをつくろう！

2022年8月21日(日) @禰長

BIWAKOビエンナーレ2022にも展示された、宇野裕美氏のインスタレーション作品に使われている、伸びる生地を使った特別な「ロゼット」作りを体験しました。

WORKSHOP 04



ポリプレプをつくろう！

2022年10月30日(日) @旧伴家住宅

河合晋平氏による“ポリプレプ”のワークショップ。“ポリプレプ”とは、絵の具を透明プラ板で挟み込んで生まれた作品。作り方のレシピを公開し、実演制作しました。

イベント

Event

Event 01



BIWAKOビエンナーレ2022 コンサート

2022年10月9日(日) @まちや倶楽部

ポーランドからリヴァープアンサンブルが来日し、まちや倶楽部(近江八幡)のガブリエラ・モラウエツ氏のインスタレーション前にてコンサートを行いました。4名の音楽家によるカルテットで、参加者を魅了しました。

Event 03



「起源～ORIGIN」

by BIWAKOビエンナーレ スペシャルユニットコンサート

2022年11月5日(土) @宗安寺

日本で唯一の528Hz作曲家・ピアニストであるACOON HIBINO氏による、特別コンサート。二胡、パーカッション、スティール・パン、タブラー奏者とのスペシャルコラボが実現しました。

Event 02



もしも世界の終わりが明日だとしても 健とジュリアは小麦の種を蒔くだろう

2022年10月22日(土) @まちや倶楽部

米谷健+ジュリアによる、アーティスト・トークイベント。アーティスト本人たちを前に、インタビュー・対話形式で進行了。現代アートを分かりやすく解説し、作品の魅力を紐解きました。

Event 04



Vanishing Bias Live

2022年10月29日(土) @寺本邸 中庭

BIWAKOビエンナーレ展示会場である寺本邸中庭で行われた、AWAYA × Kikoh Matsuuraによるライブパフォーマンス。同所に展示する作家自らが演奏し、作品と音の世界を融合させました。



International Art Festival BIWAKO BIENNALE 2022 ORIGIN

in Omihachiman & Hikone

会 期	2022年10月8日(土)~11月27日(日) 10:00-17:00 水曜日休場
会 場	滋賀県 近江八幡旧市街地 沖島 彦根市街地 彦根城 鳥居本
主 催	国際芸術祭BIWAKOビエンナーレ実行委員 独立行政法人日本芸術文化振興会 文化庁
制 作	国際芸術祭BIWAKOビエンナーレ実行委員会
助 成	公益財団法人花王芸術・科学財団 東方文化支援財団 公益財団法人河本文教福祉振興会 公益財団法人秀明文化財団 公益財団法人平和堂財団
協 賛	CGCO株式会社 株式会社日吉 オーストリア大使館 近江八幡まちや倶楽部 京都信用金庫 スウェーデン大使館 株式会社もりしま 森島商事株式会社 株式会社カネ吉ヤマモトフーズ 建築遺産アセットマネジメント Going Nuts! 株式会社千成亭風土 進々堂商光株式会社 夏原工業株式会社 有限会社フェイム ポーランド広報文化センター Australia Council for the Arts Region Halland 滋賀県酒造組合
後 援	在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本 滋賀県 滋賀県教育委員会 スロヴェニア大使館 しがぎん経済文化センター
協 力	あきんど道商店街 近江八幡左義長保存会 近江鉄道グループ 近江民族文化研究会 旧伴家住宅 株式会社平和堂 SHIN湯治 ルルド 成安造形大学 美術領域 現代アートコース 宇野ゼミ



[実行委員長] 小西 理(近江八幡市長)
[総合ディレクター] 中田 洋子
[事務局] エロディ・ダ・クルーズ 小野寺 雅彦 中田 杜樹
村井 龍三 山田 大高
[撮影] 平垣内 悠人(MILLIEN PHOTOGRAPHIC)
[PR映像撮影] 野田 明範(Nody_films)
[デザイン] 山中 崇寛(CHILLOUT CREATIVE SPACE)

[サブ写真撮影]
• 各ページ*印及び、P.73 O-11、O-13、O-15 : 中田 洋子
• P.57 **印 : 清水 里美
• P.104-105 H-10、H-11、H-13 以外 : 中田 洋子
• P.116-117 WORKSHOP 01、Event 01以外 : 中田 洋子及びスタッフ

[QRコードの動画撮影]
• P.12、P.20、P.28、P.63、P.110 : 平垣内 悠人
• P.14、P.19 : 中田 洋子 • P.31 : circle side
• P.50、P.83、P.88 : 野田 明範 • P.93 : 沙羅双樹

[Chairman of Executive Committee] Konishi Osamu (Mayor of Omihachiman City)
[General Director] Nakata Yoko
[Production Staff] Elodie Da Cruz, Onodera Masahiko, Nakata Soju,
Murai Ryuzo, Yamada Hirotaka
[Photography] Hirakakiuchi Yuto (MILLIEN PHOTOGRAPHIC)
[PR Video] Noda Akinori (Nody_films)
[Design] Yamanaka Takahiro (CHILLOUT CREATIVE SPACE)

[Other photography credits]
• All photos marked with (*), and p.73 O-11, O-13, O-15 : Nakata Yoko.
• p.57 (**) : Shimizu Satomi
• p.104-105, except for H-10, H-11, H-13 : Nakata Yoko
• p.116-117, except for WORKSHOP 01 and Event 01 : Nakata Yoko and staff
[QR Code video credits]
• p.12, p.20, p.28, p.63, p.110 : Hirakakiuchi Yuto
• p.14, p.19 : Nakata Yoko • p.31 : circle side
• p.50, p.83, p.88 : Noda Akinori • p.93 : Sarasaju

BIWAKOビエンナーレ2022 起源~ORIGIN 図録

2023年1月20日発行

発 行 国際芸術祭BIWAKOビエンナーレ実行委員会
〒523-0847 滋賀県近江八幡市永原町元12
印刷・製本 銀聲舎出版会
発 行 人 松尾 寛
発 行 所 銀聲舎出版会
〒641-0005 和歌山県和歌山市田尻529-1
E-mail ginseisha@fallinland.mods.jp

表 紙 Main visual "Conduction" by Kikoh Matsuura
I S B N 9784908474170

●公式WEBサイト(左)
<https://energyfield.org/biwakobiennale/>
●BIWAKO BIENNALE リンク集(右)
<https://linktr.ee/biwakobiennale>

